

浜松バッハ研究会 創立20周年記念演奏会

J.S.バッハ/J.S.Bach

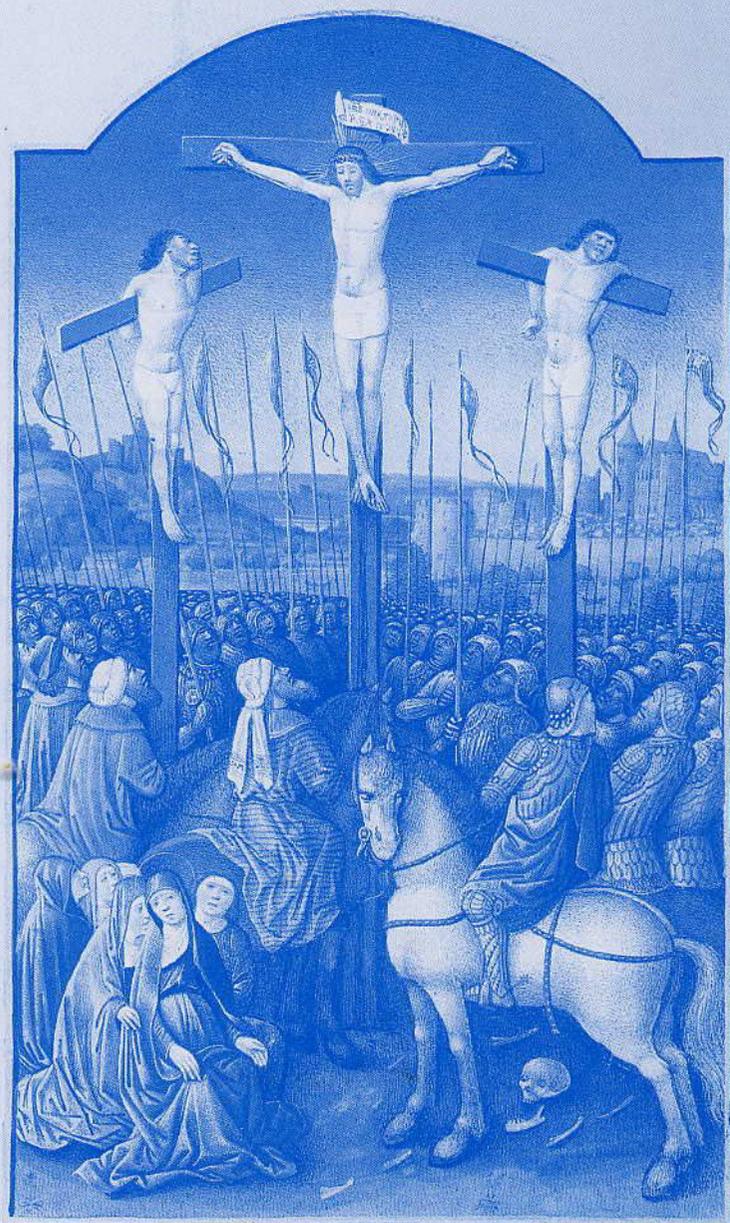
マタイ受難曲

MATTHÄUS-PASSION BWV244

2005年9月25日(日)
アクトシティ浜松 中ホール

主催 ● 浜松バッハ研究会
豊橋バッハアンサンブル

後援 ● 浜松市・浜松市教育委員会
豊橋市・豊橋市教育委員会
(財)浜松市文化振興財団
(財)豊橋市文化振興財団
浜松ドイツ文化交流協会
静岡県合唱連盟 浜松市合唱連盟
静岡新聞社・SBS静岡放送
中日新聞東海本社
K・MIX **FMHar!**
テレビはままつ
チヨタ遠越準一文化振興基金



会長あいさつ

本日は浜松バッハ研究会創立20周年記念「マタイ受難曲」演奏会にご来場いただき、誠に有り難うございます。今日の日を迎えることができましたのもひとえに日頃より私達の活動を支えて下さっている皆様のおかげです、会員一同心から御礼申し上げます。

1974年頃から始まった浜松でのバッハ演奏活動の歴史をひもとくと、本年は「マタイ受難曲」浜松初演30周年の記念の年でもあります。しかし当初の活動は10年を経ずして衰退し、バッハ生誕300周年であった1985年には浜松でのバッハ演奏の灯は消滅寸前でした。そこで有志に呼びかけ、急ごしらえではありましたが年末に「クリスマス・オラトリオ」を演奏したのが今日の浜松バッハ研究会の礎となりました。その後5年おきに大きな節目を迎えることとなります。1990年には現音楽監督の三澤洋史先生との出会い、1995年には10周年記念「マタイ受難曲」全曲演奏への取り組み、2000年暮れから2001年にかけてはバッハ没後250周年記念のドイツ演奏旅行、世紀の変わり目を私達はバッハの聖地で迎えることができました。そして2005年の本日、私達は20周年記念の「マタイ受難曲」演奏会を行います。

「マタイ受難曲」はバッハが人類に残した最高の遺産とも称される名曲ですが、私達にとっては二度目の全曲演奏への挑戦でもあり、より完成度の高い演奏を目指して1年9カ月に及び練習を行って参りました。3時間以上にもわたる大作で歌詞もドイツ語ではありますが、本日は日本語字幕付きの演奏ですので、時代を超えた壮大なドラマとしてご鑑賞頂ければ幸いです。

バッハ生誕320年、マタイ受難曲初演から278年、バッハ没後 255年の年に

浜松バッハ研究会 会長 河野周平

上演曲目

J.S.バッハ「マタイ受難曲」BWV244

第1部

----- 休憩 -----

第2部

福音史家、テノール独唱：植木紀夫

イエス：長谷川顯

ソプラノ独唱：藤崎美苗

アルト独唱：永島陽子

バス独唱：初鹿野剛

合唱と管弦楽：

浜松バッハ研究会、豊橋バッハアンサンブル、浜松少年少女合唱団

指揮・チェンバロ：三澤洋史

合唱団、管弦楽団一覧

合唱

ソプラノ 浅野朋子、金子ますみ、川瀬綾子、
川田咲度、小林京子、佐藤 玲、
鈴木麗子、戸島美湖、長谷川悠、
三宅ゆりの

アルト 飯田素子、國井みさえ、黒田浩子、
小林益世、鈴木理恵、鈴木瑠美子、
馬淵京子、細倉ゆずる、森田悦子、
山田セキ子

テノール 川口 強、柴原貞幸、戸島準一郎、森 光彦

バス 青木繁光、安藤佑治、大石泰由、
駒沢真司、白瀧太郎、鈴木秀明、
清木 達、伏見洋人

合唱

井戸恵子、今村陽子、梅原絵里子、
大場美智子、岡田彩子、佐藤 馨、
萩野美雪、早川真央、早川美香、
端山恵美

安藤美津恵、伊藤道子、太田由巳子、
金子恒江、鬼頭計枝、清木穂名美、
浪崎加代、長谷川明子、彦坂克美、
山田かおり

太田 圭、河野周平、早川徳次

池谷吉史、生駒修治、小貫勇作、
萩野 潔、長谷川正仁、安井研一

浜松少年少女合唱団

犬塚理子、杉山静香、伊熊詩織、太田沙理菜、岡 理美、後藤みゆき、鈴木麻衣子、
荒木菜摘、新木理香子、小澤実央、大谷佳菜子、上條翔子、近藤久美子、鈴木彩絵、
牧野ひかり、渡辺百合子、生崎文乃、大場 舜、川島遥奈、野島健一、福田和世、
新井響子、石川若菜、川隅 妙、松本健吾、中野詩菜、新井拓人、大場 稜、野島真知子

管弦楽

第1ヴァイオリン 北川靖子、生駒尚子、
小沢規子、中林尚之

第2ヴァイオリン 小野弘達、浜口佳乃、
東儀 温、宮崎秀生

ヴィオラ 小林 勝、岩瀬登美子、
山内絵理

チェロ 神農清志、西村美菜子

コントラバス 田邑元一

フルート 木村伊都子、松永寛美

リコーダー 中山 真、山田有恒

オーボエ 村瀬正巳、大橋弥生

ファゴット 曾布川利貞

ヴィオラ・ダ・ガンバ
オルガン

管弦楽

木村英道、田邑利香、
福本はる奈、松山礼美

中谷 宏、剣持秀紀、
神農佐知子

岸仲順子、秋元紀子、
波多野逸郎

山内 明、豊田祐子

黒田充洋

中林尚子、北村美智子

久米慶子、大村 稔

斉藤善彦

長谷川敦子

花井 淑

演奏会スタッフ

ステージマネージャー 内海直人

録音 福本信夫

録画 河野善子

主な出演者と団体のご紹介

指揮、チェンバロ：三澤洋史

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。以来、オペラ、オラトリオ指揮者として幅広く活動を開始する。バッハに深く傾倒しており、「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などの大曲を全て暗譜でレパートリーに有する。かつて福音史家として共演したエルンスト・ヘフリガー氏からも絶賛されている。2000年暮れから2001年初めにかけて、浜松バッハ研究会と共にドイツ演奏旅行。エアフルト、ハレでの口短調ミサ曲の成功に加えて、バッハが晩年カントールとして活躍したライプチヒの聖トマス教会では、新年の音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わって務めた。1999年より2003年まで、夏に開催されるワーグナー音楽祭として世界的に有名な「バイロイト音楽祭」において、祝祭合唱団の指導スタッフの一員として従事した。2001年9月より、新国立劇場合唱団合唱指揮者に就任。新国立劇場が行う全ての公演に合唱指揮者として関わる。芸術監督トーマス・ノヴォラツスキー氏就任に伴い、2003年9月から一年間は、音楽ヘッド・コーチも兼任した。2002年1月、新国立劇場において、新国立劇場本公演、フンパーディング作曲「ヘンゼルとグレーテル」を指揮し、好評を博す。2005年7月には、新国立劇場、高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」6回公演を指揮。2004年より始まった、子供のためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険」では編曲、指揮を担当。絶大な人気を博した。2005年夏も上演。2005年5月1日、東京交響楽団特別演奏会「三澤洋史のドイツ・レクイエム」(サントリー・ホール)を指揮する。講演や放送の分野でも活躍。バイロイト音楽祭での経験を生かして、日本ワーグナー協会主催講演を中心に、各地で講演会及びレクチャー・コンサートを精力的に行っている。2001年、及び2003年12月、NHK FM においてバイロイト音楽祭の全ての演目の解説を担当する。その他にもFM音楽番組の解説を精力的に行っている。作曲、台本、演出も手がけ、作品にミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」音楽劇「ノアの箱舟」「ぐるんぱのようちえん」などがある。声楽を伴うあらゆる様式の音楽に精通。言葉と音楽、ドラマと音楽の接点を追求している。日本顕彰会より社会貢献者賞受賞、上毛新聞社より上毛音楽賞を受賞。日本ワーグナー協会会員。愛知県立芸術大学、京都教育大学、東京藝術大学非常勤講師や、名古屋芸術大学客員教授、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専任指揮者などを経て、現在新国立劇場合唱団指揮者。1990年より浜松バッハ研究会常任指揮者。
*本日使用するチェンバロのご紹介 6 頁に

福音史家、テノール独唱：植木紀夫

東京芸術大学声楽科卒業、同別科修了。1993年渡独。ヴュルテンベルク州教会立教会音楽大学及び同大学院にて7年間教会音楽を学び、国教会カントール(教会音楽家)としての研鑽・訓練を積む。在独中エスリンゲン市ツオルベルク国教会のカントールを務める。1995年、ルートヴィクスブルク市主教座教会における「クリスマス・オラトリオ」を皮切りに、受難曲・カンタータ・オラトリオのソリストとしてシュツツガルト市近郊の演奏会に多数出演。2000年、同大学院を声楽と合唱指揮法における最優秀をもって修了。同年、ドイツ国教会カントールの最高資格である『教会音楽家A級ディプロム』を取得し帰国。2002年12月、プロジェクト・カルポス合唱団による『カントール植木紀夫帰国記念コンサート』が開催され、指揮者・オルガニストとしての日本における活動を開始。またエヴァンゲリストを歌うテノールさらに讃美歌研究者として、その活動は多岐に渡る。声楽を原田茂生、高丈二、故アルド・バルディン、ブルース・アーベル、ローゼマリー・ヤクチシュの各氏に師事。現在、桜美林学園オルガニスト及び桜美林大学総合文化学群・桜美林中学校高等学校兼任講師。プロジェクト・カルポス合唱団、コール・ヴォンネ我孫子各指揮者。キリスト教礼拝音楽学会理事。国際賛美歌学会、日本賛美歌学会、日本オルガニスト協会各会員。

イエス：長谷川顯

国立音楽大学卒業。香川県生まれ。二期会合唱団に15年間在籍した後、1996年二期会公演「ワルキューレ」のフンディングに抜擢されソリストに転向。舞台映えのする長身に加え、豊麗な美声で聴衆を魅了した。続く二期会公演「魔笛」にもザラスト口役で出演。以来、「リゴレット」スパラフチーレ、「トゥーランドット」ティムール、「フィガロの結婚」バルトロ、「ドン・ジョバンニ」騎士長、「ニュールンベルクのマイスタージンガー」ポグナーなどバスの主要な役を演じている。特筆すべきは新国立劇場公演「ニーベルングの指環」に於いて、2001年「ラインの黄金」ファーフナー、

2002年「ワルキューレ」フンディング、2003年「ジークフリート」ファーフナー、2004年「神々の黄昏」ハーゲンまで4作通じて連続出演しており、今や我が国に於けるワーグナー上演に際しては不可欠な存在である。コンサートでも「第九」、モーツァルト、フォーレ、ヴェルディ、ドヴォルザークの「レクイエム」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」などその活動の場を拡げ好評を博している。二期会会員。

* 浜松バッハ研究会の演奏会には1996～98年以来久々にご登場いただくこととなります。

ソプラノ独唱：藤崎美苗

岩手大学教育学部、東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修士課程修了。現在同大学院古楽科在籍中。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、瀬山詠子、朝倉蒼生の各氏に、バロック声楽を野々下由香里、ペーター・コーイの両氏に師事。第10回友愛ドイツ歌曲コンクール第2位入賞。これまでにJ.S.バッハの教会カンタータ、「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、「ミサ曲口短調」、「クリスマスオラトリオ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」、メンデルスゾーン「エリア」などの宗教曲でソリストを務める。バッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとして演奏会・録音に参加している。浜松バッハ研究会とは2000年の「ミサ曲口短調」演奏会以来、ドイツ演奏旅行も含めて共演が続いている。

アルト独唱：永島陽子

桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業。1976年春渡欧。1980年旧東ドイツ、ライプツィヒに於ける国際バッハ・コンクールにて女声5位入選。同年オーストリア、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科を、1983年に旧西ドイツ、デトモルト国立音楽大学声楽科を、各々最優秀にて卒業。また、1986年演奏家国家試験を最優秀にて修了。1980年以来ドイツを中心にヨーロッパ各地、イスラエル、日本でリートおよびオラトリオの演奏活動を続け、1997年春帰国。1999年、2001年、2004年に東京にて、リーダーアーベントを開催。2002年、2003年、2004年大阪いずみホールの礒山雅氏プロ

デュースによる“4人で歌うバッハのカンタータ”に出演。萩谷納、ヴォルフガング・シュタインブリュック、ローマン・オルトナー、ヘルムート・ドイチュ、ヘルムート・クレッチマル、ユリア・ハマリ、ディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウ、ゼーガー・ヴァンダースターネ他の各氏に師事。現在、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。浜松バッハ研究会とは2000年の「ミサ曲口短調」演奏会以来、共演が続いている。

バス独唱：初鹿野剛

御殿場市出身。清水南高芸術科、東京芸術大学を経て同大学院修士課程修了。大学卒業時に松田トシ賞受賞。第一回静岡の名手たちオーディション合格。第一回浜松交響楽団ソリストオーディション声楽部門入賞。コンサートでは1996年、朝日新聞社主催・第46回「芸大メサイア」の独唱者として楽壇にデビュー以来、数多くの団体とバッハを中心とする諸作品を共演。オペラにおいては1998年、藤井喬梓のモノローグ・オペラ《チブコ～木を抱く夢》京都・東京初演を始めとして、《魔笛》パパゲーノ、《ナクソス島のアリアドネ》かつら師・ハルレキン、《こうもり》ファルケ、《ルル》猛獣使い、《ヘンゼルとグレーテル》ペーター等を演じる。昨年4月からドイツ・カールスルーエ州立音楽大学付属オペラ研修所に在学すると共に、9月から平成16年度文化庁芸術家在外派遣研修員としてヨゼフ・ロイブル教授（ミュンヘン州立音楽大学）の元で研修。期間中、Lucetta BizziやHilde Zadekのマスタークラスを受講すると共に、ドイツ・シュヴェツィンゲン宮殿音楽祭におけるパイシェット／ヘンツェ《ヴェネツィアのテオドール王》（ドイツ初演）アクメット役での出演、バーデン州立歌劇場カールスルーエ等各地でオペラ・コンサートに出演。11月の浜響59定期演奏会に独唱者として出演予定。声楽を後藤千恵子、芳野靖夫、原田茂生、マルチェッラ・レアール、ヨゼフ・ロイブル、ドナルド・ライタカーの各氏に師事。二期会会員、日本演奏連盟会員。浜松バッハ研究会とは2000年暮からのドイツ演奏旅行以来、共演が続いている。

コンサート・ミストレス、ヴァイオリン独奏（第39曲）：北川靖子

W. シュタフオンハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業。1971年、オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンをF.サモヒール教授に、室内楽をF.ホレチェック教授に師事。1975年、ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年、ハンブルク交響楽団に入団、コンサートマスターに就任。1981年、ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月～91年12月、北川暁子と25回の「ドゥオのタベ」を開催。1987年、東京にてリサイタル。1989年、北川暁子、千本博愛と「セルヴェ・トリオ」を結成。以後毎年演奏会を開催。1992年、北川暁子と「ソナタのタベ」を開催。以後「ソナタのタベ」他、毎年開催。現在、2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。浜松バッハ研究会・管弦楽団には1988年の「マタイ受難曲」以来、ほとんどの演奏会に参加。

オルガン：花井 淑

三重県桑名市生まれ。名古屋音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専修卒業。同大学卒業演奏会、三重県新人演奏会に出演。ピアノを水谷百合子、野田順子、水谷みち子、藤井賀寿恵の諸氏に師事。また大学在学中より名古屋・カトリック五反城教会に於いてパイプオルガンの勉強を始め、オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、故・F.ボーンの諸氏に師事。また、Z.サットマリー、故・A.シェーンシュテット、H.フォーゲルの諸氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982年～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、立教大学教会音楽研究所友の会、名古屋バロック音楽協会各会員。ソリストおよび通奏低音奏者として活躍中。2000年10月、岐阜県民ふれあい会館サラマンカホールに於いて、故・高円宮殿下、同妃殿下のホールご視察の際には御前演奏をした。浜松バッハ研究会演奏会には1996年の「マタイ受難曲」以来、ドイツ演奏旅行（2000年末～2001年始にかけて）も含めてほとんど毎回参加している。三重県桑名市在住。
*本日使用するオルガンのご紹介 7頁に

ヴィオラ・ダ・ガンバ独奏 (第34,35,65,66曲) : **長谷川敦子**

国立音楽大学音楽学部楽理学科卒業。ヴィオラ・ダ・ガンバを神戸愉樹美、平尾雅子の両氏の下で学ぶ。主にヴィオラ・ダ・ガンバのコンソート、また声楽を含むアンサンブル・合唱・オペラなどの通奏低音奏者として活動を続けている。日本ヘンデル協会第3～7回公演に出演。北とびあ祝祭合奏団公演(1996年～2001年)、アンサンブル合宿(2001年～)等の設営を行う。日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会夏期講習会などで初心者の手解きをたびたび務めている。古楽アンサンブルグループ「ポプリ」主宰。「アントルメ」メンバー。

*本日の使用楽器、1980年 佐藤一也氏作。

リコーダーⅠ (第19曲) : **中山 真**

長崎県出身。学生時代よりリコーダーを趣味とし、現在、積志リコーダーカルテットメンバー。古典鍵盤楽器の保守・調律に携わっている。

*本日使用するチェンバロはアクト中ホール備品ですが、中山氏が製作担当した、フランスのチェンバロ製作家タスカン(1769年モデル)のレプリカ(コピー)です。

リコーダーⅡ (第19曲) : **山田有恒**

東京都出身。積志リコーダーカルテットメンバー。ヤマハ(株)に勤務し、リコーダーの製作に携わっている。

*本日、山田さんが使用されるリコーダーは自作で、コペンハーゲン楽器博物館蔵のヤコブ・デナー作F管(18世紀初頭)のレプリカです。

浜松バッハ研究会管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、浜松バロック・アンサンブル、ヤマハ吹奏楽団などから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらずレベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

*以下の独奏担当の皆様、村瀬さんは2000年暮のドイツ演奏旅行以来のおつき合い、その他の方は当会創立当初からの常連の皆様です。

チェロ独奏 (聖書句) : **神農清志**

オーボエ独奏 (第20曲) : **村瀬正巳**

ヴァイオリン独奏 (第42曲) : **木村英道**

フルート独奏 (第49曲) : **木村伊都子**

浜松少年少女合唱団 (第1・29曲コラル旋律)

私たちは、「少年少女ならではの澄んだ響きと鋭い感性を磨きながら、より高い芸術性、人間性を追求していくこと」を目的に1998年に結成されました。現在は音楽監督に岸信介氏を迎え、歌うことが大好きな小中高生32名で活動しています。定期演奏会とクリスマスコンサート、コンクールへの参加を中心にさまざまな曲を楽しく歌っています。また2000年3月にはドイツへ演奏旅行に行き貴重な体験をしてきました。ケルンの大聖堂で歌った感動は今でも忘れることはできません。練習は毎週土曜日の夕方にはまホールの練習室で行っています。親睦を深めるための三ヶ日青年の家での合宿も私たちの楽しい合唱団の行事のひとつです。本日はバッハ研究会の皆様と「マタイ受難曲」を歌う機会を得ました事は団員にとって大きな喜びであります。ドイツ語の発音に苦労しましたが精一杯歌わせて頂きます。

<http://homepage2.nifty.com/HamamatsuShonenSyojo/>

本日使用するコンティヌオ・パイプオルガンの紹介

本日使用するパイプオルガンはドイツ、シェーネフェルト社2001年製のコンティヌオポジティブです。2000-2001年のドイツ・ツアー時に現地で借用したモデルを元に浜松バッハ研究会用に特別注文で製作されたものです。譜面台にはドイツツアーで訪れたバッハゆかりの各地の教会が美しい象嵌細工で描かれています。

左上の山頂にルターが聖書をドイツ語に訳したワルトブルグ城、その麓にバッハが洗礼を受けたアイゼナハのゲオルゲン教会、その左下にバッハ一族の本拠地であるエアフルトのドーム、その右にバッハの両親が結婚式をあげたカウフマン教会が描かれています。中央にはバッハファンの聖地とも言えるライプチヒの聖トーマス教会、その右にヘンデルとバッハの長男が活躍したハレのマルクト教会、その下にバッハがオルガニストとして初めて務めたアルンシュタットのバッハ教会、右端がバッハが結婚式をあげたドルンハイムの教会です。

オルガンの仕様

上下分離式・ポータブル型 材質 オーク 透かし彫り
4 レジスター：8' Holzgedackt – 4' Rohrflöte – 2' Prinzipal; – 1' Oktavlein
音域 C-f3 54鍵・55音 (H²-e3 にトランスポジション可能)
鍵盤材質 黒檀 及び 水牛角貼りカエデ

河野周平所有

怒りから小さな手へ 三澤洋史

今年は戦後60年ということで、終戦記念日のある8月を中心に、テレビでもいろいろ特集番組が生まれ、もう一度あの太平洋戦争とは何だったのか考えさせられた。満州開拓者の意欲と善意は、旧日本政府の侵略政策の中に組み込まれていた。知らずに侵略の加害者となっていた彼等が、日本の敗戦によって引き揚げた時の悲惨さは筆舌に尽くしがたい。なによりも現地の人達の自分達に向けられた憎悪に正当性が感じられるのが、引き揚げ者達を絶望に追いやったのだという。

東京空襲を初めとする大都市無差別絨毯爆撃は、非人道的行為として国際戦争法に違反し、当時米国内部でも相当反対意見があったのだという。これはテレビの特集番組で初めて知った。その反対意見を説き伏せて攻撃に踏み切ったきっかけは、日本が中国の重慶において行った無差別絨毯爆撃であったことも、これまで知らなかった。日本は国際的な戦争ルールを次々と破っていった。中国における略奪、放火、強姦、暴行は計り知れない。毒ガスや細菌兵器まで使用していた事実を、我々はどの程度知っているだろうか。米国に対しても、真珠湾を奇襲することの国際世論に与える影響の大きさなど、全く考えていなかったに違いない。米兵捕虜にもむごい待遇を行っていたという。

もしその頃、僕が西洋人だったとしたら、日本人とはとんでもない野蛮人だと激しく怒っていたに違いない。“リメンバー・パールハーバー”は、単に真珠湾だけの事ではなく、当時の日本のとどまるところを知らぬ暴虐に対する怒りだったのである。それでも、

「日本がそんな卑劣な国だといっても、だからといって自分達までもが同じ次元に下がって無差別攻撃を行っていいのだろうか？」

という疑問を呈する人達が最後までいたというから、西洋の良心は捨てたものではないと思う。結果的には、そうした意見を持つ人々は少数派として隅に追いやられ、日本の主要都市はことごとく壊滅し、広島と長崎には恐ろしい原子爆弾が投下されることになるのだが・・・。

多くの日本人は未だに、日本が“アメリカと戦争”して負けたと思い込んでいる。その認識は甘い。日本が朝鮮、中国を初めとするアジア諸国に対して行っていたことを、それ以前に“世界が見ていた”のである。日本はある意味、“世界の良心”を相手に戦かわざるを得なかったのだ。すなわち、それは“勝ってはならない戦争”だったのである。

今回の「マタイ受難曲」公演で、僕は「怒りのマタイ」というコンセプトを掲げた。曲の冒頭で、イエスは、十字架にかかるために引き渡される自分の運命を弟子達に告知するが、その直後に、「心から愛するイエスよ。あなたは一体何をしたというのです？」というコラールが歌われる。このコラールは、“救世主の受難”という不条理へ単刀直入に疑問を投げかける。その際、イエスに対する愛情が強ければ強いほど、その疑問には“怒り”の感情が伴うようになるのではないかと僕は考えた。大惨事が起こるといつも遺族達が疑問を投げかける。

「何故こんな事が・・・。」

そこには疑問だけでなく、むしろ激しい怒りがあるだろう。その怒りこそ、まさに主の受難に対する信仰者のナチュラルな感情だ。

ユダヤ人達が激しく叫ぶ。

「十字架につける！十字架につける！」

その直後にも、バッハは同じメロディーのコラールを置いた。

「これは何と不思議な懲罰なのだ。良き牧者が自らの羊のために苦しむなんて！」

この曲も同じ疑問の延長線上にある。ハーモニーが複雑で陰影に富んでいるので、これまで僕はことさらに静かな疑問として表現してきたが、今回はその中でも内的激しさを加えてみたい。それによって、直後にローマ総督ピラトがつぶやく、「あいつは一体どんな悪いことをしたというんだ？」というセリフに深みが加わる。ピラトの無力感といらだちは、よりの確に描き出され、その後の「愛ゆえに我が救い主は死に給えり」のソプラノ・ソロの説得力も増すと思われるのである。

僕は何度も受難曲を演奏してきた。でも「キリストの受難は、人類を救済する神の計画であり、キリストは我々の為のいけにえとして死んだ。」という教義は、頭では理解できても、そう

演奏出来たことは一度もなかった。キリスト者としての僕は、教義に反抗するつもりは毛頭ない。でも芸術家としての僕が、この受難劇の本質に深く迫り、描いていくうちにどうしても、「受難は、神の計画として必然的に起こったものなどではなく、人類が勝手に起こした単なる愚行に過ぎない」という認識に辿り着いてしまうのである。

「父よ、彼らをお許し下さい。自分が何をしているか知らないのです。」

(ルカによる福音書、第23章34節)

しかしながら、キリストが本当に“我々の罪のあがないのために”死んだかどうかの議論は置いておくとして、キリストを葬った者達の罪は、“自分が犯し得る”罪であり、我々は誰でもユダとなり得るという“加害者としての意識”を持つことは必要なことだと思う。太平洋戦争の最中、旧日本軍が行った数々の行為は、確かに現代に生きる我々とは直接は関係ない。だが同じ日本人として「それは自分とは無関係！」とすましているわけにはいかないのである。イラク戦争が始まった時、あなたがもしアメリカ人に会ったら尋ねてみたかったのではないか？

「この戦争、同じアメリカ人としてあなたは どう思うか？」

と。だから我々の中に日本人の血が流れている限り、我々は同じ日本人の運命を共有する義務がある。たとえそれが過去のものであっても。あなたは一人の日本人として、「もしその境遇に居合わせたら、他の日本人達と同じ事をしなかったと言い切れるだろうか？」、あるいは、「同僚の行為を本当に勇気を持って止めることが出来ただろうか？」と自問自答しなければならない。

受難に関しても同様である。同じ人間としてこれまで人類が行ってきた数々の愚行を、今の自分に重ね合わせることを試み、自分の弱さ、罪に向かい合うイマジネーションを持たない限り、それらは全て遠い過去の物語にしか過ぎず、我々の内面にアクチュエルに語りかけては来ない。みんなが無責任である限り、世界は同じ過ちを何度でも繰り返す。我々は、救世主を自らの手で葬るといふ愚行を行い得た人類の一人であり、朝鮮、中国において信じられない暴虐を行い得た日本人の一人である。この認識を持って、僕の「怒りのマタイ」の怒りの矛先は、かつてのユダヤの民衆ではなく、自らの内面に向かう。すなわち、僕の内面、及びあなたの内面に問うものとなる。

「怒りのマタイ」は、あなたにとって辛く不快で、いたたまれないものとなるかも知れない。しかし僕が強調したいことがある。救世主を自らの手で葬り去ったその同じ人類が、キリスト教を世界中に広めたという事実だ。受難が人によって行われた愚行であるのと全く同じ意味で、これも“人類の手によって”行われたのである。キリスト教がこの極東の国にまで広まったのは、神によってではない。勿論現在となつては、それも神の計画であったと言うことは出来るだろう。しかし実際には、自分の幸福を求める生き方に背を向け、他人の魂の救済のために自らを投げ打って生きた無数の人達の「血と汗と涙」によってなのである。あなたの街にもいなかっただろうか？たとえば伝道のために本国を捨て、この国に骨を埋めた牧師や神父が……。こうしたひとりひとりの「小さな手」が、世界を動かし、歴史を変えてきたのではないだろうか。この世界は、人類の住む世界だ。この世界をどうするかは、我々ひとりひとりにかかっているのだ。

イエスを三度否認したペテロは、その深い悔恨があったからこそ、その後の力強い伝道を成し遂げる事が出来た。パウロは、イエスを信じる者達をことごとく迫害していた張本人だったのに、イエスと出逢い、生まれ変わって、イエスのために殉教も厭わなかった。マグダラのマリアは、七つの悪霊に憑かれていたのに、イエスによって許され、イエスの復活を最初に見届けた者となった。

みんな自分の意志で行動したのだ。それほどまでに我々は自由意志を神から与えられているのである。誤った生き方を歩む自由意志と、悔恨し、真実の道を歩む自由意志とを。だからこそ僕は言いたいのだ。この受難劇から目をそらさずにまっすぐ見つめて欲しい。そして受難と自分自身とをつなげて欲しいのだ。怒りを感じたら素直に怒ろう。しかし傍観者であることはやめよう。その中から明日の世界について考えるヒントを探して欲しい。そして僕たちも「小さな手」になろうではないか。世界は僕たちのものであり、行動するのは誰でもない僕たちなのだから。

「マタイ受難曲」 BWV244：概説と歌詞対訳

作曲 ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)

表題 Passio D.N.J.C.(Domini Nostri Jesu Christi) secundum Matthaum
マタイが伝える我らが主イエス・キリスト(救い主)の御受難

演奏機会 受難節。春分後の最初の満月直後の日曜日が復活節、その2日前の金曜日が受難節。

初演 1727年受難節(以前は1729年説も)。

ドイツ語歌詞 歌詞の日本語訳は舞台の字幕でも表示します。

- ・聖書 マタイ伝26-27(カトリック教会からの伝統に従っている)
- ・複数回登場するコラール

Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen (作詞J.Heermann)

第1節 - 第3曲、第3節 - 第19曲、第4節 - 第46曲

O Welt, sieh hier dein Leben (作詞P.Gerhardt) 第5節 - 第10曲、第3節 - 第37曲

O Haupt voll Blut und Wunden (作詞P.Gerhardt)

第5節 - 第15曲、第6節 - 第17曲、第1・2節 - 第54曲、第9節 - 第62曲

- ・独唱曲などの自由詩 クリスティアン・フリードリヒ・ヘンリーツィ(筆名ピカンダー)
イエスに関するレチタティーヴォとアリアの歌詞には、パート毎に以下の役割りがある。

ソプラノ 「愛」または「愛する魂」および「感謝」

アルト 「懺悔と後悔」及び「哀願」

テノール 「信仰心」とそこから生じる「忍耐」

バス イエスに近い立場の人々の心情を語る

編成 独唱(S,A,T,B)、うちイエス役のバスは1人専任。合唱4部(S,A,T,B)が2セット。

管弦楽 - 以下の編成が2セット

フルート2、オーボエ2(オーボエ・ダモーレ、オーボエ・ダ・カッチャ持ち替え)、

弦(ヴァイオリン2部、ヴィオラ)、通奏低音(ファゴット、チェロ、コントラバス、

オルガンかチェンバロまたは両方)、ヴィオラ・ダ・ガンバ

独唱配役 ソプラノ：レチタティーヴォとアリア、女中・、ピラトの妻

アルト：レチタティーヴォとアリア、偽証者

テノール：福音史家、レチタティーヴォとアリア、偽証者

バス：イエス、ユダ、ペテロ、レチタティーヴォとアリア、大祭司、ピラト

使用楽譜 Bärenreiterまたはその準拠版

歌詞対訳について

- ・各単語の綴りは音楽之友社「J.S.バッハノマタイ受難曲」ミニチュアスコア(新バッハ全集準拠版)に従いました。これにより今日では-ck-と綴る部分も-kk-となっています。また文字省略の印である'も大部分は省略されています。
- ・日本語訳は出来るだけ原語の語順に合うようにしたため、通常の日本語としては多少不自然な部分もあることをご承知ください。
- ・改行は、聖書の言葉はできるだけ休符が挿入されている箇所、またその他の音韻を持つ詞(コラール、合唱曲、レチタティーヴォやアリア)はできるだけ音韻を区切りに行いました。
- ・ダカ ポ形式の歌詞(ここでは音楽的形式ではなく歌詞の歌われ方)は、中間部を1字分右下げし、その後の繰り返し部の歌詞の記載は省略(字幕では表示)しました。

参考文献 ・「マタイ受難曲ノ礪山雅」東京書籍

・「聖書・新改訳(1970)」日本聖書刊行会

解説と歌詞対訳 - ご質問・ご意見は小川与半へ(ogawa-yh@classic.interq.or.jp)

Erster Teil : 第 1 部

1.Chorus & Choral (Italic)

Kommt, ihr Töchter, helft mir klagen,
sehst, -Wen?- den Bräutigam,
sehst ihn, -Wie?- als wie ein Lamm,

*O Lamm Gottes, unschuldig
am Stamm des Kreuzes geschlachtet,
sehst, -Was?- sehst die Geduld,
allzeit erfunden geduldig,
wiewohl du warest verachtet.
sehst, -Wohin?- auf unsre Schuld.
All Sünd hast du getragen,
sonst müßten wir verzagen.*

Sehet ihn aus Lieb und Huld
Holz zum Kreuze selber tragen.

Erbarm dich unser, o Jesu, o Jesu!

* 下線部「schlachten: ほふる(屠る)」

2.Matthäus 26.1-2 (Bold: by Chorus)

Da Jesus diese Rede vollendet hatte,
sprach er zu seinen Jüngern:

"Ihr wisset,
daß nach zweien Tagen Ostern wird,
und des Menschen Sohn wird
überantwortet werden,
daß er gekreuziget werde."

3.Choral

Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen,

daß man ein solch scharf Urteil
hat gesprochen?

Was ist die Schuld, in was für Missetaten
bist du geraten?

4.Matthäus 26.3-13

Da versammelten sich die Hohenpriester
und Schriftgelehrten und die Ältesten im Volk
in den Palast des Hohenpriesters,
der da hieß Kaiphas,
und hielten Rat,
wie sie Jesum mit Listen griffen,

1.合唱とコラール(斜体文字)

来なさい、娘たちよ、私と共に嘆け、
見よ、-誰を?-花婿を、
彼を見よ、-どんな様か?-

子羊のような姿を。

おお神の子羊、罪無くして
十字架の上にほふられた。

見よ、-何を?-その忍耐を見よ。

あなたはいつも忍耐強かった、
いかにあざけられても。

見よ、-どこを?-私たちの罪を。

全ての罪をあなたは背負われた。
さもなければ私たちは
絶望していただろう。

見よ、彼が愛と慈しみから

十字架の木を自ら運ばれるのを。

私たちを憐んでください、おおイエス。

肉を食べるため動物を殺すこと。

2.マタイ 26.1-2 (以下の強調文字は合唱)

さてイエスはこれらの言葉を語り終えると、
弟子たちに言った。

「お前たちも知っての通り、

二日後は過越の祭りだ。

そこで人の子は渡される。

十字架に付けられるために。」

3.コラール

心より愛するイエスよ、

あなたはどんな罪を犯して、

このような厳しい判決を受けたのですか?

その罪は何ですか? どんな悪事に

あなたは関わったのですか?

4.マタイ 26.3-13

その頃祭司長と律法学者

それに民の長老たちは、
カヤバという名の大祭司の邸に集まり、

協議して

どのような策略でイエスを捕え、

und töteten.

Sie sprachen aber:

**"Ja nicht auf das Fest,
auf daß nicht ein Aufruhr werde im Volk."**

Da nun Jesus war zu Bethanien,
im Hause Simonis des Aussätzigen,
trat zu ihm ein Weib,
die hatte ein Glas mit köstlichem Wasser
und goß es auf sein Haupt,
da er zu Tische saß.

Da das seine Jüngern sahen,
wurden sie unwillig und sprachen:

**"Wozu dienet dieser Unrat?
Dieses Wasser hätte mögen teuer verkauft
und den Armen gegeben werden."**

Da das Jesus merkte, sprach er zu ihnen:

"Was bekümmert ihr das Weib?

Sie hat ein gut Werk an mir getan.
Ihr habet allezeit Armen bei euch,
mich aber habt ihr nicht allezeit.

Daß sie dies Wasser hat
auf meinen Leib gegossen,
hat sie getan, daß man mich begraben wird.
Wahrlich, ich sage euch:
Wo dies Evangelium gepredigt wird
in der ganzen Welt,
da wird man auch sagen zu ihrem Gedächtnis,
was sie getan hat."

5. Recitativo-Alto

Du lieber Heiland du,
wenn deine Jünger töricht streiten,
daß dieses fromme Weib
mit Salben deinen Leib
zum Grabe will bereiten,
so lasse mir inzwischen zu,
von meiner Augen Tränenflüssen
ein Wasser auf dein Haupt zu gießen!

6. Aria-Alto

Buß und Reu knirscht das Sündenherz entzwei,
daß die Tropfen meiner Zähren
angenehme Spezerei,
treuer Jesu, dir gebären.

殺そうかと企んだ。

しかし彼らは言った。

**「祭りの間はやめておこう、
民衆の間に暴動が起きるかもしれない。」**

さてイエスがベタニヤで
癩病人シモンの家に居た時、
ある女がイエスに歩み寄って、
高価な香油の入った壺を持って来て、
その香油をイエスの頭に注ぎかけた。
ちょうど彼が食卓についた時だった。
すると弟子たちがこれを見て、
憤りをあらわにして言った。

**「なぜそんな無駄使いをするのか？
この香油は高く売って、
貧しい者に施すことが出来るのに。」**

イエスはこれに気付いて、彼らに言った。

「お前たちはなぜこの女を悩ませるのか？
彼女は私に良いことをしたのだ。
貧しい人々は常にお前たちと共に居るが、
私はお前たちとずっと一緒ではない。
この女が香油を私の体に注いだのは、

私の葬りの用意をするためなのだ。
まことに私はお前たちに言うておく。
この福音が伝えられるところでは
全世界どこでも、
この女の記念に、
彼女がしたことは語られるだろう。」

5. レチタティーヴォ・アルト

愛しい救い主よ、
あなたの弟子たちが愚かにも、
この信仰の厚い女が
香油であなたのお体に
葬りの用意をしたのを責めるのなら、
私にはせめてお許しください、
この目に溢れる涙の流れの
一滴をあなたの頭に注ぐことを！

6. アリア・アルト

懺悔と後悔は罪深い心をふたつに潰す、
私の涙の雫は
かぐわしい香りとなって、
まことなるイエスよ、
あなたに注がれますように。

7. Matthäus 26.14-16

Da ging hin der Zwölfen einer
mit Namen Judas Ischarioth
zu den Hohenpriestern und sprach:
"Was wollt ihr mir geben?
Ich will ihn euch verraten."
Und sie boten ihm dreißig Silberlinge.
Und von dem an suchte er Gelegenheit,
daß er ihn verriete.

8. Aria-Soprano

Blute nur, du liebes Herz!
Ach! ein Kind, das du erzogen,
das an deiner Brust gesogen,
droht den Pfleger zu ermorden,
denn es ist zur Schlange worden.

9. Matthäus 26.17-22

Aber am ersten Tage der süßen Brot
traten die Jünger zu Jesu und sprachen zu ihm:
"Wo willst du, daß wir dir bereiten
das Osterlamm zu essen?"

Er sprach:
"Gehet hin in die Stadt zu einem
und sprecht zu ihm:
'Der Meister läßt dir sagen:
-Meine Zeit ist hier,
ich will bei dir die Ostern halten
mit meinen Jüngern.-'"
Und die Jünger taten,
wie ihnen Jesus befohlen hatte,
und bereiteten das Osterlamm.
Und am Abend setzte er sich zu Tische
mit den Zwölfen.

Und da sie aßen, sprach er:

"Wahrlich, ich sage euch:
Einer unter euch wird mich verraten."
Und sie wurden sehr betrübt und huben an,
ein jeglicher unter ihnen, und sagten zu ihm:
"Herr, bin ichs?"

10. Choral

Ich bins, ich sollte büßen,
an Händen und an Füßen
gebunden in der Höll.

7. マタイ 26.14-16

さて、十二弟子の一人
イスカリオテのユダという者が
祭司長たちの所に行って言った、
「あなた方は私に何をくれるか？
私はイエスをあなた方に引き渡そう。」
すると彼らはユダに銀貨30枚を差し出した。
この時からユダは機会をうかがって、
イエスを彼らに引き渡そうとした。

8. アリア・ソプラノ

血にまみれよ、愛しき心よ！
ああ、お前が育てた子のひとり、
お前の乳房に養われた子が、
養い育てた親を殺そうと迫る。
その子は蛇となったからだ。

9. マタイ 26.17-22

さて、除酵祭の最初の日、
弟子たちがイエスに歩み寄って彼に言った、
「私たちはどこに
過越の食事の用意をいたしましょうか？」
イエスは言った。
「町に行つてある人を訪ねて
彼に告げなさい。
『師の言伝をお伝えします。
- 私の時が来た、
私はあなたの傍で過越を
弟子たちと一緒に守ろう。 - 』」
弟子たちはイエスが命じた通りに、

過越の用意をした。
そして夕方イエスは十二弟子と共に席に付いた。

そして彼らが食事をしている時、
イエスが言った。
「まことに私はお前たちに伝えておく。
お前たちの中の一人が私を裏切るだろう。」
弟子たちはひどく悲しみ、
各々イエスに向かって言い始めた。
「主よ、私ですか？」

10. コラール

私です。私が償うべきなのです。
両手両足を
縛られて地獄に居るべきなのです。

**Die Geißeln und die Banden
und was du ausgestanden,
das hat verdient meine Seel.**

11. Matthäus 26.23-29

Er antwortete und sprach:
"Der mit der Hand mit mir
in die Schüssel tauchet,
der wird mich verraten.
Des Menschen Sohn gehet zwar dahin,
wie von ihm geschrieben stehet;
doch wehe dem Menschen,
durch welchen des Menschen Sohn
verraten wird!
Es wäre ihm besser,
daß derselbige Mensch
noch nie geboren wäre."
Da antwortete Judas, der ihn verriet,
und sprach:
"Bin ichs, Rabbi?"
Er sprach zu ihm:
"Du sagests."
Da sie aber aßen, nahm Jesus das Brot,
dankete und brachs
und gabs den Jüngern und sprach:
"Nehmet, esset, das ist mein Leib."
Und er nahm den Kelch
und dankete, gab ihnen den und sprach:
"Trinket alle daraus;
das ist mein Blut des neuen Testaments,
welches vergossen wird
für viele zu Vergebung der Sünden.
Ich sage euch:
Ich werde von nun an nicht mehr
von diesem Gewächs des Weinstocks trinken
bis an den Tag,
da ichs neu trinken werde mit euch
in meines Vaters Reich."

12. Recitativo-Soprano

Wiewohl mein Herz in Tränen schwimmt,
daß Jesus von mir Abschied nimmt,
so macht mich doch sein Testament erfreut:
Sein Fleisch und Blut, o Kostbarkeit,
vermacht er mir in meine Hände.

鞭と縄目、
そしてあなたが耐えてくださったもの、
それこそ私の魂に相應しい報いです。

11. マタイ 26.23-29

イエスが答えて言った。
「私と共に手を同じ鉢に入れて食事をする者が
私を裏切るだろう。
人の子の逝くさまは、
(聖書に)記された通りである。
しかしその人は災いである。
人の子を裏切るのだから！
このような人は、
生まれぬ方が良かったらう。」

イエスを裏切ろうとしているユダが答えて
言った。
「それは私ですか？ 先生。」
イエスはユダに言った。
「お前の言う通りだ。」
さて彼らが食事をする時、イエスはパンを取り、
感謝して裂き、
弟子たちに与えて言った。
「取って食べなさい、これは私の体である。」
また杯を取り
感謝して、彼らに与えて言った。
「皆この杯より飲みなさい。
これは新しい契約のための私の血である。
私の血が流されることによって
多くの人のために罪の赦しを
得るためである。
私はお前たちに言うておく。
私は今後ひと口も
葡萄の実から出来るものは飲まない。
来たるべき日に、
お前たちと共に新しいものを、
私の父の国で飲むまでは。」

12. レチタティーヴォ・ソプラノ

いかに私の心が涙の中を泳ぎ、
イエスが私に別れを告げられたのを悲しむとも、
イエスの遺言はなお喜ばしいものである。
イエスの御体と御血、おお尊きものを、
私の両手に遣してくださる。

Wie er es auf der Welt mit denen Seinen
nicht böse können meinen,
so liebt er sie bis an das Ende.

13.Aria-Soprano

Ich will dir mein Herze schenken,
senke dich, mein Heil, hinein!

Ich will mich in dir versenken;
ist dir gleich die Welt zu klein,
ei so sollst du mir allein
mehr als Welt und Himmel sein.

14.Matthäus 26.30-32

Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten,
gingen sie hinaus an den Ölberg,
Da sprach Jesus zu ihnen:

"In dieser Nacht
werdet ihr euch alle ärgern an mir.
Denn es stehet geschrieben:
-Ich werde den Hirten schlagen,
und die Schafe der Herde
werden sich zerstreuen.-
Wenn ich aber auferstehe,
will ich vor euch hingehen in Galiläam."

15.Choral

**Erkenne mich, mein Hüter,
mein Hirte, nimm mich an!
Von dir, Quell aller Güter,
ist mir viel Guts getan.
Dein Mund hat mich gelabet
mit Milch und süßer Kost,
dein Geist hat mich begabet
mit mancher Himmelslust.**

16.Matthäus 26.33-35

Petrus aber antwortete und sprach zu ihm:
"Wenn sie auch alle sich an dir ärgerten,
so will ich doch mich nimmermehr ärgern."
Jesus sprach zu ihm:
"Wahrlich, ich sage dir:
In dieser Nacht, ehe der Hahn krähet,
wirst du mich dreimal verleugnen."
Petrus sprach zu ihm:
"Und wenn ich mit dir sterben müßte,

イエスがこの世で弟子たちを、
決して憎んだことがないように、
弟子たちへの愛は世の終りの日にまで及ぶ。

13.アリア・ソプラノ

私はあなたに私の心を捧げます。
宿ってください、私の救いよ、心の奥に。
私はあなたの中に身を沈めます。
たとえ全世界があなたには小さ過ぎても、
そう、あなたは私にのみ
世にも天にも勝る存在です。

14.マタイ 26.30-32

そして彼らは讚美歌を歌った後、
オリブ山に出かけた。
そこでイエスが弟子たちに言った。
「今晚お前たちは皆私につまずくだろう。

聖書にこう記されているからだ。
『私は羊飼いを打つ。
すると羊の群は散り散りになる。』

しかし私が蘇ったら、
お前たちより先にガリラヤに
行っているだろう。」

15.コラール

私を認めてください、私の守り主よ、
私の牧者よ、私を受け入れてください。
全ての善の源であるあなたによって
多くの良い事が私になされました。
あなたの口は私を励まします、
あたかも乳や甘いもののように。
あなたの霊は私に与えてくださる。
溢れるほどの天上の喜びを。

16.マタイ 26.33-35

ペテロが答えてイエスに言った。
「たとえ皆があなたにつまずいても、
私は決してつまずきません。」
イエスはペテロに言った。
「まことに、私はお前に言っておく。
今晚、鶏が鳴く前に、
お前は三度私を知らないと言うだろう。」
ペテロはイエスに言った。
「たとえ私があなたと共に

so will ich dich nicht verleugnen."
Desgleichen sagten auch alle Jünger.

17.Choral

**Ich will hier bei dir stehen;
verachte mich doch nicht!
Von dir will ich nicht gehen,
wenn dir dein Herze bricht.
Wenn dein Herz wird erblassen
im letzten Todesstoß,
alsdenn will ich dich fassen
in meinen Arm und Schoß.**

18.Matthäus 26.36-38

Da kam Jesus mit ihnen zu einem Hofe,
der hieß Gethsemane,
und sprach zu seinen Jüngern:
"Setzet euch hie,
bis daß ich dort hingehe und bete."
Und nahm zu sich Petrum
und die zween Söhne Zebedäi
und fing an zu trauern und zu zagen.
Da sprach Jesus zu ihnen:
"Meine Seele ist betrübt bis an den Tod,
bleibet hie und wachet mit mir."

19.Recitativo-Tenore & Choral

O Schmerz! hier zittert das gequälte Herz;
wie sinkt es hin, wie bleicht sein Angesicht!
Was ist die Ursach aller solcher Plagen?
Der Richter führt ihn vor Gericht.
Da ist kein Trost, kein Helfer nicht
Ach! meine Sünden haben dich geschlagen;
Er leidet alle Höllenqualen,
er soll vor fremden Raub bezahlen.
Ich, ach Herr Jesu, habe dies verschuldet,
was du erduldet.
Ach könnte meine Liebe dir,
mein Heil, dein Zittern und dein Zagen
vermindern oder helfen tragen,
wie gerne blieb ich hier!

死なねばならなくとも、
私はあなたを知らないなどとは言いません。」
同様のことを全ての弟子たちも言った。

17.コラール

**私はここ、あなたの傍にとどまります。
私を侮らないでください。
私はあなたから去ることはありません。
たとえあなたの心が破れても。
たとえあなたの心が
死の一突きに青ざめても、
その時こそ私はあなたを抱きましょう。
私の腕と懐の間に。**

18.マタイ 26.36-38

さてイエスは弟子たちと共に、
ゲッセマネという所に来て、
弟子たちに言った。
「お前たちはここに座っていなさい、
私があちらに行って祈っている間。」
そしてペテロと
ゼベダイの子二人とを連れて行き、
悲しみ悩み始められた。
そこでイエスは彼らに言った。
「私の心は憂いのあまりに死ぬほどである。
皆ここに留まり
私と共に目を覚ましていなさい。」

19.レチタティーヴォ・テノールとコラール

おお痛まし！ さいなまれた心は震える。
なんと沈んだ御心、なんと青ざめた御顔！
全てのそれほどの苦しみの元は何か？
裁き主は彼を裁きの場に引き出す。
そこには慰めもなく、助ける者もない。
ああ、私の罪があなたを打ったのだ。
彼は種々の地獄の責めに苦しまれ、
他人の盗みの罪を償われた。
**私が、ああ主イエスよ、
この罪を受けるべきだ、
あなたが耐えてくださるこの罪を。**
ああ、私の愛が、
私の救いよ、あなたの憂いと悩みを
和らげ、また分かち合えるならば、
私はどんなに喜んでここに留まることか。

20. Aria-Tenore & Chorus

Ich will bei meinem Jesu wachen,
so schlafen unsre Sünden ein.

Meinen Tod büßet seine Seelennot,
sein Trauren machet mich voll Freuden.

**Drum muß uns sein verdienstlich Leiden
recht bitter und doch süße sein.**

21. Matthäus 26.39

Und ging hin ein wenig,
fiel nieder auf sein Angesicht
und betete und sprach:

"Mein Vater, ists möglich,
so gehe dieser Kelch von mir;
doch nicht wie ich will,
sondern wie du willst."

22. Recitativo-Basso

Der Heiland fällt vor seinem Vater nieder;
dadurch erhebt er mich und alle
von unsern Falle
hinauf zu Gottes Gnade wieder.
Er ist bereit,
den Kelch, des Todes Bitterkeit zu trinken,
in welchen Sünden dieser Welt gegossen sind
und häßlich stinken,
weil es dem lieben Gott gefällt.

23. Aria-Basso

Gerne will ich mich bequemen,
Kreuz und Becher anzunehmen,
trink ich doch dem Heiland nach.
Denn sein Mund,
der mit Milch und Honig fließet,
hat den Grund
und des Leidens herbe Schmach
durch den ersten Trunk versüßet.

24. Matthäus 26.40-42

Und er kam zu seinen Jüngern
und fand sie schlafend und sprach zu ihnen:
"Könnet ihr denn nicht eine Stunde
mit mir wachen?
Wachet und betet,
daß ihr nicht in Anfechtung fallet!
Der Geist ist willig,

20. アリア・テノールと合唱

私はイエスの傍で目覚めていよう。
そうすればわたしたちの罪は消えるだろう。
イエスの魂の苦しみは私の死を償い
イエスの悲しみは私を喜びに満たす。
ゆえに私たちには彼の尊き苦難は、
まことに辛いがかし甘きものでもある。

21. マタイ 26.39

そして少し進み、
地にひれ伏し祈って言った。

「私の父よ、かなうならば、
この杯を私から去らせてください。
しかし私の意志によってではなく、
あなたの御心のままに。」

22. レチタティーヴォ・バス

救い主が父の前にひれ伏された。
これにより彼は私と全ての人を
私たちの墮落の淵から
神の恩恵に引き上げてくださった。
彼の心は定まり、
死の苦い杯を飲み干そうとしている。
この世の罪がことごとく注がれ、
悪臭を放つその杯を。
それは愛しい神が定められたことだからだ。

23. アリア・バス

私は喜んで定めに従い、
十字架と苦い杯を受け入れ、
私も救い主に続いて飲もう。
なぜなら彼の口、
乳と蜜の流れ出る御口は、
その源と苦しみのにがい屈辱を
最初のひと飲みで癒されるのだから。

24. マタイ 26.40-42

さてイエスは弟子たちの所に来て、
彼らが眠っているのを見て彼らに言った。
「お前たちは一時も
私と共に起きていられないのか？
目を覚まして祈れ、
誘惑に陥らないように！
魂は熱いが、

aber das Fleisch ist schwach."
Zum andernmal ging er hin, betete und sprach:
"Mein Vater, ists nicht möglich,
daß dieser Kelch von mir gehe,

ich trinke ihn denn,
so geschehe dein Wille."

25.Choral

**Was mein Gott will, das gscheh allzeit,
sein Will, der ist der beste.
Zu helfen den' er ist bereit,
die an ihn gläuben feste.
Er hilft aus Not, der fromme Gott,
und züchtiget mit Maßen.
Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut,
den will er nicht verlassen.**

26.Matthäus 26.43-50

Und er kam und fand sie aber schlafend,
und ihre Augen waren voll Schlags.
Und er ließ sie und ging abermal hin
und betete zum drittenmal
und redete dieselbigen Worte.
Da kam er zu seinen Jüngern
und sprach zu ihnen:
"Ach! wollt ihr nun schlafen und ruhen?
Siehe, die Stunde ist hie,
daß des Menschen Sohn in der Sünder Hände
überantwortet wird.
Stehet auf, lasset uns gehen;
siehe, er ist da, der mich verrät."
Und als er noch redete,
siehe, da kam Judas, der Zwölfen einer,
und mit ihm eine große Schar
mit Schwertern und mit Stangen
von den Hohenpriestern
und Ältesten des Volks.
Und der Verräter hatte ihnen
ein Zeichen gegeben und gesagt:
"Welchen ich küssen werde,
der ists, den greifet!"
Und alsbald trat er zu Jesu und sprach:
"Gegrüßet seist du, Rabbi!"
Und küssete ihn.
Jesus aber sprach zu ihm:

肉体は弱いからだ。」
イエスは再びあちらに行き、祈って言った。
「私の父よ、
この杯を私から去らせることが
出来ないのなら、
私は杯を飲みますから、
あなたの思いを成就させてください。」

25.コラール

**私の神が思われたことは常に成就される。
神の御心、それが最善だからだ。
神は常に救おうと備えてくださる。
神を堅く信じる者たちを。
正しき神は、私たちを苦悩より救い、
また程よく懲らしめられる。
神に己れを委ね、堅く頼る者を、
神は見捨てられることはない。**

26.マタイ 26.43-50

そしてイエスは来て弟子たちが眠っていて、
その眼は睡魔に満ちているのを知り、
彼らをそのままにして再びあちらに行き、
3度目の祈りを捧げ、
同じ言葉を言われた。
そしてイエスは弟子たちの所に来て
彼らに言った。
「ああ、お前たちは今だに眠り休むのか？
さあ、時が来て、
人の子は罪人らの手に
引き渡されようとしている。
起きろ、さあ行こう。
そら、私を裏切る者はそこにいる。」
そしてイエスがなお話している時に、
十二弟子の一人ユダが、
彼に従う剣と警棒を携える多数の衆、

祭司長や民の長老らより
遣わされた者らと共に来た。
裏切り者(ユダ)は彼らに合図を示すため
言っておいた。
「私が口づけする者、
それがイエスだ。彼を捕えろ。」
そしてユダは即座にイエスに歩み寄って言った。
「ごきげんよう、先生！」
そしてイエスに口づけした。
するとイエスはユダに言った。

"Mein Freund, warum bist du kommen?"
Da traten sie hinzu
und legten die Hände an Jesum und griffen ihn.

27. Aria (Soprano/Alto) & Chorus

So ist mein Jesus nun gefangen.

Laßt ihn, haltet, bindet nicht!

Mond und Licht ist vor Schmerzen
untergangen,

weil mein Jesus ist gefangen.

Laßt ihn, haltet, bindet nicht!

Laßt ihn, haltet, bindet nicht!

Sie führen ihn, er ist gebunden.

Sind Blitze, sind Donner

in Wolken verschwunden?

**Eröffne den feurigen Abgrund, o Hölle,
zertrümmre, verderbe,**

verschlinge, zerschelle

mit plötzlicher Wut

den falschen Verräter, das mörderische Blut!

28. Matthäus 26.51-56

Und siehe, einer aus denen,
die mit Jesu waren, rekkete die Hand aus,
und schlug des Hohenpriesters Knecht
und hieb ihm ein Ohr ab.

Da sprach Jesus zu ihm:

"Stecke dein Schwert an seinen Ort;

denn wer das Schwert nimmt,
der soll durchs Schwert umkommen.

Oder meinst du,
daß ich nicht könnte meinen Vater bitten,
daß er mir zuschickte mehr
denn zwölf Legion Engel?

Wie würde aber die Schrift erfüllet?

Es muß also gehen."

Zu der Stund sprach Jesus zu den Scharen:

"Ihr seid ausgegangen, als zu einem Mörder,
mit Schwerten und mit Stangen,
mich zu fahen;

bin ich doch täglich bei euch gesessen
und habe gelehret im Tempel,
und ihr habt mich nicht gegriffen.

Aber das ist alles geschehen,
daß erfüllet würden

「友よ、なぜ来たのか？」
この時 人々が歩み寄って
イエスに手をかけ、彼を捕えた。

27. アリア (ソプラノ/アルト) と合唱

そうして私のイエスは今や捕らわれた。

放せ、止めよ、縛るな!

月も光も嘆きのため沈んでしまった。

私のイエスが捕らわれてしまったから。

放せ、止めよ、縛るな!

放せ、止めよ、縛るな!

彼らはイエスを連れて行く。

イエスは縛られている。

稲妻は、雷鳴は、

雲に隠れてしまったのか?

燃えさかる奈落を開け、おお地獄よ、
打ち砕き、滅ぼし、

のみ尽くし、砕き散らせ、

烈しき怒りにより

この不実の裏切り者、人殺しの血を!

28. マタイ 26.51-56

すると、弟子たちの一人、
イエスと共に居た者の一人が、手を伸ばし、
大祭司の下僕に切りかかり、
その片耳を切り落とした。

するとイエスは彼に言った。

「お前の剣をその鞘に収めよ。

剣を取る者は、
剣により滅びるからだ。

あるいはお前は、
私が父に願って、
送ってもらうことも出来ないと思うのか、
十二軍団もの御使を?

しかしそれでは聖書はどうして成就するのか?
それは成就されねばならない。」

更にイエスは民衆に向かって言った。

「お前たちは人殺しに立ち向かうように、
剣と警棒を携えて、

私を捕えに来たのか。

私はいつもお前たちの傍に座って、
神殿で教えていたのに、
お前たちは私を捕えなかったではないか。

しかし全てがこのようになったのは、
予言者らの記した言葉が

die Schriften der Propheten."
Da verließen ihn alle Jünger und flohen.

29.Choral

**O Mensch, beweine deine Sünde groß,
darum Christus seines Vaters Schoß
äußert und kam auf Erden;
von einer Jungfrau rein und zart
für uns er hie geboren ward,
er wollte der Mittler werden.
Den Toten er das Leben gab
und legt dabei alle Krankheit ab,
bis sich die Zeit herdrange,
daß er für uns geopfert würd,
trüg unserer Sünden schwere Bürd
wohl an dem Kreuze lange.**

成就されるためである。」
そして弟子たちは皆イエスを見捨てて
逃げ去った。

29.コラール

おお人よ、お前の罪の大きさを嘆け。
ゆえにキリストは御父の膝元を離れ、
この地上に来られた。
清く優しい乙女より、
イエスは私たちのためにこの世に生れ、
仲介者となろうとしてくださいました。
死者に生命を与え、
また全ての病を癒され、
そうして時は迫り、
彼は私たちのために犠牲となり、
私たちの罪の重荷を負ってください、
十字架の上で長い間。

----- 休憩 -----

Zweiter Teil : 第 2 部

30.Aria-Alto & Chorus (Hohelied 6.1)

Ach, nun ist mein Jesus hin!
**Wo ist denn dein Freund hingegangen,
o du Schönste unter den Weibern?**
Ist es möglich, kann ich schauen?
Wo hat sich dein Freund hingewandt?
Ach! mein Lamm in Tigerklauen,
ach! wo ist mein Jesus hin?
So wollen wir mit dir ihn suchen.

Ach! was soll ich der Seele sagen,
wenn sie mich wird ängstlich fragen?
Ach! wo ist mein Jesus hin?

31.Matthäus 26.57 - 59

Die aber Jesum gegriffen hatten,
führten ihn zu dem Hohenpriester Kaiphas,
dahin die Schriftgelehrten und Ältesten
sich versammelt hatten.
Petrus aber folgte ihm nach von ferne
bis in den Palast des Hohenpriesters
und ging hinein
und setzte sich bei die Knechte,

30.アリア・アルトと合唱(雅歌 6.1)

ああ、今や私のイエスは去った！
あなたの恋人はどこに行ったのだろう？
おお、女の中で最も美しい者よ。
私は(イエスを)見つけられるだろうか？
あなたの恋人はどこに向かったのか？
ああ、虎の爪に囚われた私の子羊、
ああ、私のイエスはどこに行ったのか？
では私たちもあなたと共に
彼を探しましょう。
ああ、私は魂にどう言うべきか、
その魂が私に不安げに尋ねたなら？
- ああ、私のイエスはどこに行ったのか？ - と。

31.マタイ 26.57-59

さてイエスを捕えた者たちは、
大祭司カヤパの所にイエスを連れて行った。
そこには律法学者や長老たちが集まっていた。

ペテロは距離を置いてイエスの後を追い、
大祭司の邸の中庭に入り、

下僕たちの傍に座り、

auf daß er sähe, wo es hinaus wollte.
Die Hohenpriester aber und Ältesten
und der ganze Rat suchten
falsche Zeugnis wider Jesum,
auf daß sie ihn töteten,
und funden keines.

32.Choral

**Mir hat die Welt trüglich gericht'
mit Lügen und mit falschem Gdicht,
viel Netz und heimlich Strikke.
Herr, nimm mein wahr in dieser Gfahr,
bhüt mich für falschen Tükken!**

33.Matthäus 26.60 - 63

Und wiewohl viel falsche Zeugen
herzutraten, funden sie doch keins.
Zuletzt traten herzu zween falsche Zeugen
und sprachen:
"Er hat gesagt:
-Ich kann den Tempel Gottes abbrechen
und in dreien Tagen denselben bauen.-"
Und der Hohepriester stund auf
und sprach zu ihm:
"Antwortest du nichts zu dem,
das diese wider dich zeugen?"
Aber Jesus schwieg stille.

34.Recitativo-Tenore

Mein Jesus schweigt zu falschen Lügen stille,
um uns damit zu zeigen,
daß sein Erbarmens voller Wille
vor uns zum Leiden sei geneigt,
und daß wir in dergleichen Pein
ihm sollen ähnlich sein
und in Verfolgung stille schweigen.

35.Aria-Tenore

Geduld, Geduld,
wenn mich falschen Zungen stechen.
Leid ich wider meine Schuld
Schimpf und Spott,
ei, so mag der lieber Gott
meines Herzens Unschuld rächen.

事の成り行きを見ることにした。
さて祭司長や長老たちと
会議の皆は偽りの証拠を探して、

イエスを死罪にしようとしたが、
証拠は見つからなかった。

32.コラール

世の中は私を不当に裁いた。
嘘と偽りの言葉、
多くの網と密かな罠によって。
主よ、私を受け入れ、この危機の中、
偽りの策略より私を守ってください！

33.マタイ 26.60-63

また多くの偽証者が入ってきたが、
やはり彼らは証拠を見つけられなかった。
最後に2人の偽証者が進み出て
言った。
「この人は言った。
『私は神殿を壊して、
三日で建て直せる』と。」
大祭司は立ち上がってイエスに言った。

「お前は何も答えないのか？
この者たちのお前に不利な証言に。」
しかしイエスは沈黙したままだった。

34.レチタティーヴォ・テノール

私のイエスは嘘偽りに沈黙しておられる。
これにより私たちに示してくださる。
憐れみに満ちた彼の御心が
私たちのために苦しみを受け入れられたことを。
そして私たちも同様の苦痛に遭ったら、
イエスがなされたように
迫害の中でも沈黙すべきことを。

35.アリア・テノール

忍耐だ、忍耐だ、
たとえ偽りの舌が私を刺しても。
私は己の罪に向けられた
辱しめと嘲りの苦難を受けよう。
そう、その時は愛しい神が
私の心の無実を晴らしてくださるだろう。

36. Matthäus 26.63 - 68

Und der Hohepriester antwortete
und sprach zu ihm:
"Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott,
daß du uns sagest,
ob du seiest Christus, der Sohn Gottes?"
Jesus sprach zu ihm:
"Du sagests.
Doch sage ich euch:
Von nun an wirds geschehen,
daß ihr sehen werdet des Menschen Sohn
sitzen zur Rechten der Kraft
und kommen in den Wolken des Himmels."
Da zerriß der Hohepriester seine Kleider
und sprach:
"Er hat Gott gelästert;
was dürfen wir weiter Zeugnis?
Siehe,
itzt habt ihr seine Gotteslästerung gehört.
Was dünket euch?"
Sie antworteten und sprachen:
"Er ist des Todes schuldig!"
Da speieten sie aus in sein Angesicht
und schlugen ihn mit Fäusten.
Etlicher aber schlugen ihn ins Angesicht
und sprachen:
**"Weissage uns, Christe,
wer ists, der dich schlug?"**

37. Choral

**Wer hat dich so geschlagen,
mein Heil, und dich mit Plagen
so übel zugericht'?**
**Du bist ja nicht ein Sünder
wie wir und unsre Kinder;
von Missetaten weißt du nicht.**

38. Matthäus 26.69 - 75

Petrus aber saß draußen im Palast;
und es trat zu ihm eine Magd und sprach:
"Und du warest auch mit dem Jesu
aus Galiläa."
Er leugnete aber vor ihnen allen und sprach:
"Ich weiß nicht, was du sagest."
Als er aber zur Tür hinausging,

36. マタイ 26.63-68

すると大祭司が答えてイエスに言った。
「私は生ける神の名においてお前に要求する、
私たちに答えよ、
お前は救い主、神の子なのか？」
イエスは彼に言った。
「あなたの言う通りだ。
しかし私はあなた方に言うておく。
今より後、
あなた方は人の子が
全能の者の右に座り、
天の雲に乗って来るのを見るだろう。」
すると大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。
「こいつは神を汚した。
私たちにはこれ以上の証拠は必要ない。
どうだ、
皆は今彼が神を冒瀆するのを聞いたはずだ。
皆はどう思うか？」
彼らは答えて言った。
「彼は死罪にすべきだ！」
そして彼らはイエスの顔に唾を吐きかけ、
拳で彼を叩いた。
また何人かは彼の顔を殴って
言った。
「当てて見ろ、救い主よ、
お前を殴ったのは誰だ？」

37. コラール

**誰があなたをこれほど叩いたのか、
私の救いよ、
また誰があなたを責め苦と共に、
こんなに不当に裁いたのか？
あなたは全く罪人ではない。
私たちと子らのような罪人ではなく
あなたは悪事をご存じない。**

38. マタイ 26.69-75

さてペテロは大祭司邸の中庭に座っていたが、
1人の女が彼に歩み寄って言った。
「あんたもガリラヤのイエスと一緒にだったね。」
しかしペテロは皆の前で打ち消して言った。
「私はあなたの言うことがわからない。」
ペテロが門まで出で行くと、

sahe ihn eine andere
und sprach zu denen, die da waren;
"Dieser war auch mit dem Jesu von Nazareth."
Und er leugnete abermal und schwur dazu:
"Ich kenne des Menschen nicht."
Und über eine kleine Weile traten hinzu,
die da stunden,
und sprachen zu Petro:
**"Warlich, du bist auch einer von denen;
denn deine Sprach verrät dich."**
Da hub er an,
sich zu verfluchen und zu schwören:
"Ich kenne des Menschen nicht."
Und alsbald krähete der Hahn.
Da dachte Petrus an die Worte Jesu,
da er zu ihm sagte:
"Ehe der Hahn krähen wird,
wirst du mich dreimal verleugnen."
Und ging heraus und weinete bitterlich.

39. Aria-Alto

Erbarme dich, mein Gott,
um meiner Zähren willen!
Schaue hier, Herz und Auge
weint vor dir bitterlich.
Erbarme dich.

40. Choral

**Bin ich gleich von dir gewichen,
stell ich mich doch wieder ein;
hat uns doch dein Sohn verglichen
durch sein Angst und Todespein.
Ich verleugne nicht die Schuld;
aber deine Gnad und Huld
ist viel größer als die Sünde,
die ich stets in mir befinde.**

41. Matthäus 27.1-6

Des Morgens aber hielten alle Hohepriester
und die Ältesten des Volks
einen Rat über Jesum,
daß sie ihn töteten.
Und bunden ihn, führten ihn hin
und überantworteten ihn
dem Landpfleger Pontio Pilato.
Da das sahe Judas, der ihn verraten hatte,

別の女が彼を見て、
そこにいた人たちに言った。
「この人もナザレのイエスと一緒にだった。」
するとペテロは再び打ち消し、誓いを加えた。
「私はそんな人は知らない。」
するとしばしの間に
そこらにいた人々が歩み寄って、
ペテロに言った。
「**確かにお前もイエスの仲間のひとりだ。
お前の訛りがその証拠だ。**」
そこでペテロは、呪いつつ誓い始めた。

「私はそんな人は知らない。」
すると、ちょうどその時鶏が鳴いた。
ペテロはイエスの言葉を思い出した。
イエスはペテロにこう予言したのだ。
「鶏が鳴く前に、
お前は三度私を知らないと言うだろう。」
そして外に出て激しく泣いた。

39. アリア・アルト

憐れんでください、私の神よ、
私の涙ゆえに。
こちらを御覧ください、心も目も
あなたの前で激しく泣いています。
憐れんでください。

40. コラール

私は今はあなたから離れるが、
きっと私は再びあなたのもとに戻ろう。
あなたの御子が私たちを贖ってくださった、
彼の悩みと死の苦しみによって。
私は己の罪を否みはしない。
しかしあなたの恵みと恩寵は
私たちの罪よりずっと大きい。
私の内にたえずある罪よりも。

41. マタイ 27.1-6

夜が明けると全ての祭司長や
民の長老たちはイエスの処分について協議し、
彼を殺すことに決めた。
そしてイエスを縛り、彼を連行して、
総督ポンチオ・ピラトに引き渡した。
イエスを裏切ったユダはそれを見て、

daß er verdammt war zum Tode,
gereuete es ihn,
und brachte herwieder die dreißig Silberlinge
den Hohenpriestern und Ältesten und sprach:
"Ich habe übel getan,
daß ich unschuldig Blut verraten habe."

Sie sprachen:

"Was gehet uns das an?"

Da siehe du zu!"

Und er warf die Silberlinge in den Tempel,
hub sich davon, ging hin
und erhängete sich selbst.
Aber die Hohenpriester nahmen die Silberlinge
und sprachen:
"Es taugt nicht,
daß wir sie in den Gotteskasten legen,
denn es ist Blutgeld."

42. Aria-Basso

Gebt mir meinen Jesum wieder!
Seht, das Geld, den Mörderlohn,
wirft euch der verlorne Sohn
zu den Füßen nieder!

43. Matthäus 27.7-14

Sie hielten aber einem Rat
und kauften einen Töpfersakker darum
zum Begräbnis der Pilger.
Daher ist derselbige Akker
genennet der Blutakker
bis auf den heutigen Tag.
Da ist erfüllet,
das gesagt ist durch den Propheten Jeremias,
da er spricht:
"Sie haben genommen dreißig Silberlinge,
damit bezahlet ward der Verkaufte,
welchen sie kauften von den Kindern Israel,
und haben sie gegeben
um einen Töpfersakker,
als mir der Herr befohlen hat."
Jesus aber stund vor dem Landpfleger;
und der Landpfleger fragte ihn und sprach:
"Bist du der Jüden König?"
Jesus aber sprach zu ihm:
"Du sagests."

イエスに死の判決が下ったのを知り、
後悔して、
祭司長や長老たちに
銀貨三十枚を返して言った。
「私は悪いことをしてしまった。
私は罪のない人の血を売り渡したのだから。」
彼らは言った。

「私たちには関係ないことだ。

お前自身で始末しろ！」

するとユダは銀貨を神殿に投げ込み、
そこから去り、かなたに行つて、
首を吊つて自殺した。

さて祭司長たちはこの銀貨を拾つて
言った。

「この銀貨を神殿の庫に
納めるわけには行かない。
これは血塗られた金なのだから。」

42. アリア・バス

私のイエスを私に返せ!
見よ、その金、人殺しの報酬を、
救いのない息子は
お前たちの足元に投げ出したのだから。

43. マタイ 27.7-14

さて祭司長たちは協議の上、
その銀貨で陶器師の畑を買い、
巡礼者たちの墓地とした。
これによりその畑は、
今日に至るまで血の畑と呼ばれている。
こうして、
予言者エレミヤにて語られた言葉が成就した。
彼はこう予言した。
「彼らは銀貨30枚を受け取つた。
それはある買い物に支払われたもので、
買い物とはイスラエルの子らから
買った人のことだ。
彼らは陶器師の畑と引換えに
その銀貨を支払つた。
これらは主が私に命じられた通りである。」
さてイエスは総督の前に立っていた。
総督はイエスに尋ねて言った。
「お前はユダヤ人の王なのか？」
イエスは総督に言った。
「あなたの言う通りだ。」

Und da er verklagt war
von den Hohenpriestern und Ältesten,
antwortete er nichts.
Da sprach Pilatus zu ihm:
"Hörest du nicht,
wie hart sie dich verklagen?"
Und er antwortete ihm nicht auf ein Wort, also,
daß sich auch der Landpfleger
sehr verwunderte.

44.Choral

**Befiehl du deine Wege
und was dein Herze kränkt
der allertreusten Pflege
des, der den Himmel lenkt.
Der Wolken, Luft und Winden
gibt Wege, Lauf und Bahn,
der wird auch Wege finden,
da dein Fuß gehen kann.**

45.Matthäus 27.15 - 22

Auf das Fest aber hatte
der Landpfleger Gewohnheit,
dem Volk einen Gefangenen loszugeben,
welchen sie wollten.
Er hatte aber zu der Zeit einen Gefangenen,
einen sonderlichen vor andern,
der hieß Barrabas.
Und da sie versammelt waren,
sprach Pilatus zu ihnen:
"Welchen wollet ihr, daß ich euch losgebe?
Barrabam oder Jesum,
von dem gesaget wird, er sei Christus?"
Denn er wußte wohl,
daß sie ihn aus Neid überantwortet hatten.
Und da er auf dem Richtstuhl saß,
schickete sein Weib zu ihm
und ließ ihm sagen:
"Habe du nichts zu schaffen
mit diesem Gerechten;
ich habe heute viel erlitten im Traum
von seinetwegen!"
Aber die Hohenpriester und die Ältesten
überredeten das Volk,
daß sie um Barrabas bitten sollten

そして彼への種々の訴えが
祭司長や長老たちからなされたが、
イエスは何も答えなかった。
そこでピラトがイエスに言った。
「お前は聞こえないのか、
彼らがいかに厳しくお前を訴えているかを？」
しかしイエスはピラトには
ひと言も答えなかったので、
総督も大変不思議に思った。

44.コラール

**あなたの行くべき道と、
あなたの心の患いを委ねよ、
最も忠実なる守りで
天を治める方に。
雲、大気、そして風は
私たちの進むべき道を示す。
そこにまた道も見つかるだろう、
あなたの足が進める所にも。**

45.マタイ 27.15-22

ところで祭の間、総督は習わして、
民衆の望む囚人のひとりを
赦免することになっていた。
その時ピラトのもとにはひとりの囚人がいた。
彼は並み外れて評判な者で、
その名をバラバと言った。
そこで人々が集まった時、
ピラトは彼らに言った。
「お前たちはどちらの赦免を望むか？
バラバか、それともイエス、
救い主と言われる者か？」
ピラトは全てを良く心得ていた。
彼らがイエスを渡したのは妬みによるものと。
またピラトが裁きの席についた時、
ピラトの妻が人を遣わしてピラトに伝えた。
「この義人に関わらないでください。

私は昨夜夢でこの義人のため
大層うなされました！」
しかし祭司長や長老たちは民衆を説き伏せ、

バラバの赦免と

und Jesum umbrächten.
Da antwortete nun der Landpfleger
und sprach zu ihnen:
"Welchen wollt ihr unter diesen zweien,
den ich euch soll losgeben?"
Sie sprachen:
"**Barrabam!**"
Pilatus sprach zu ihnen:
"Was soll ich denn machen mit Jesu,
von dem gesagt wird, er sei Christus?"
Sie sprachen alle:
"**Laß ihn kreuzigen!**"

46.Choral

**Wie wunderbarlich ist doch diese Strafe!
Der gute Hirte leidet für die Schafe,
die Schuld bezahlt der Herre, der Gerechte,
für seine Knechte.**

47.Matthäus 27.23

Der Landpfleger sagte:
"Was hat er denn Übels getan?"

48.Recitativo-Soprano

Er hat uns allen wohlgetan,
den Blinden gab er das Gesicht,
die Lahmen macht' er gehend,
er sagt' uns seines Vaters Wort,
er trieb die Teufel fort,
Betrübte hat er aufgericht',
er nahm die Sünder auf und an.
Sonst hat mein Jesus nichts getan.

49.Aria-Soprano

Aus Liebe will mein Heiland sterben,
von einer Sünde weiß er nichts,
daß das ewige Verderben
und die Strafe des Gerichts
nicht auf meiner Seele bliebe.

50.Matthäus 27.23 - 26

Sie schrieen aber noch mehr und sprachen:
"**Laß ihn kreuzigen!**"
Da aber Pilatus sahe, daß er nichts schaffete,
sondern daß ein viel größer Getümmel ward,
nahm er Wasser

イエスの処刑を請うように備えた。
総督は答えて
彼らに言った。
「お前たちはこの二人の内どちらの
赦免を望むか？」
彼らは言った。
「**バラバを!**」
ピラトは彼らに言った。
「では私はイエスをどうすべきか、
救い主と言われる彼は？」
彼らは皆言った。
「**十字架に付けろ!**」

46.コラール

**なんと驚くべき刑罰!
良い羊飼いが羊の群れのために苦しみ、
正しき人である主が、罪を償われる、
彼の下僕らのために。**

47.マタイ 27.23

総督が言った。
「では彼はどんな悪事をしたのか？」

48.レチタティーヴォ・ソプラノ

彼は私たちにあらゆる良い事をしてくださった。
目の見えない者に視力を与え、
歩けぬ者を歩けるようにし、
私たちに彼の父なる神の言葉を語り、
悪魔を追い払ってくださった。
彼は悲しむ者を慰め、
罪人を受け入れられた。
私のイエスは他には何もなさらなかった。

49.アリア・ソプラノ

愛ゆえに私の救い主は死のうとされている。
主は罪ひとつご存じないのに。
それは永遠の滅びと
裁きの刑罰が
私の魂に及ばないようにして下さるためだ。

50.マタイ 27.23-26

すると彼らは一層激しく叫んで言った。
「**十字架に付けろ!**」
ピラトはもはや手に負えなくなり、
かえって暴動が起きそうなのを見て、
水を取り、

und wusch die Hände vor dem Volk
und sprach:
"Ich bin unschuldig an dem Blut
dieses Gerechten,
sehst ihr zu."
Da antwortete das ganze Volk und sprach:
**"Sein Blut komme über uns
und unsre Kinder."**
Da gab er ihnen Barrabam los:
aber Jesum ließ er geißeln
und überantwortete ihn,
daß er gekreuzigt würde.

51. Recitativo-Alto

Erbarm es Gott!
Hier steht der Heiland angebunden.
O Geißelung, o Schläg, o Wunden!
Ihr Henker, haltet ein!
Erweicht euch der Seelen Schmerz,
der Anblick solches Jammers nicht?
Ach ja! ihr habt ein Herz,
das muß der Martersaule gleich
und noch viel härter sein.
Erbarmt euch, haltet ein!

52. Aria-Alto

Können Tränen meiner Wangen
nichts erlangen,
o, so nehmt mein Herz hinein!
Aber laßt es bei den Fluten,
wenn die Wunden milde bluten,
auch die Opferschale sein!

53. Matthäus 27.27 - 30

Da nahmen die Kriegsknechte
des Landpflegers Jesum zu sich
in das Richthaus
und sammelten über ihn die ganze Schar
und zogen ihn aus,
und legten ihm einen Purpurmantel an
und flochten eine dornene Krone
und setzten sie auf sein Haupt
und ein Rohr in seine rechte Hand
und beugten die Knie vor ihm,
und spotteten ihn und sprachen:
"Gegrüßet seist du, Jüdenkönig!"

群衆の前で手を洗って言った。

「この義人の血について私は責任を負わない。

お前たちで始末しろ。」
すると全民衆が答えて言った。

「彼の血の責任は私たちと
子孫に来てよい。」

そこでピラトは民衆にバラバの赦免を示し、
イエスを鞭打たせ、
彼を十字架に付けるため引き渡した。

51. レチタティーヴォ・アルト

神の憐れみを！
ここに救い主は縛られて立っておられる。
おお鞭打ち、おお殴打、おお傷口！
刑吏よ、止めろ！
心の痛みが手加減をさせないのか、
このような悲惨な光景を目にして。
そう、お前たちにも心はあるが、
それは拷問の柱のように、
あるいはそれ以上に頑なのだろう。
憐れんでくれ、止めろ！

52. アリア・アルト

涙が私の頬に
流れ落ちなくても、
おお、私の心を受け入れてください！
しかし私の心を血の流れの傍に置いて、
主の御傷に血がにじんだなら、
その血を受ける献げの器となしてください！

53. マタイ 27.27-30

さて総督の兵卒たちは
イエスを総督官邸に引き連れ、

全部隊をまわりに集め、
イエスの衣を剥ぎ、
緋色の上衣を彼に着せ、
そして茨の冠を編み、
それをイエスの頭に乗せ、
彼の右手に葦を持たせ、
かつ彼の前にひざまずき、
彼を嘲って言った。
「ごきげんよう、ユダヤの王様！」

Und speieten ihn an und nahmen das Rohr
und schlugen damit sein Haupt.

54.Choral

1. O Haupt voll Blut und Wunden,
voll Schmerz und voller Hohn,
o Haupt, zu Spott gebunden
mit einer Dornenkron,
o Haupt, sonst schön gezieret
mit höchster Ehr und Zier,

jetzt aber hoch schimpfieret,
gegrüßet seist du mir!

2. Du edles Angesichte,
dafür sonst schrickt und scheut

das große Weltgewichte,
wie bist du so bespeit,
wie bist du so erleichet!
Wer hat dein Augenlicht,
dem sonst kein Licht nicht gleichet,
so schändlich zu gericht't?

55.Matthäus 27.31 - 32

Und da sie ihn verspottet hatten,
zogen sie ihm den Mantel aus
und zogen ihm seine Kleider an
und führten ihn hin, daß sie ihn kreuzigten.
Und indem sie hinausgingen,
funden sie einen Menschen von Kyrene
mit Namen Simon;
den zwungen sie, daß er ihm sein Kreuz trug.

56.Recitativo-Basso

Ja freilich will in uns das Fleisch und Blut
zum Kreuz gezwungen sein;
je mehr es unsrer Seele gut,
je herber geht es ein.

57.Aria-Basso

Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen,
mein Jesu, gib es immer her!

Wird mir mein Leiden einst zu schwer,
so hilfst du mir es selber tragen.

そしてイエスに唾を吐きかけ、葦を取って
彼の頭を叩いた。

54.コラール

1. おお御頭は血と傷と、
痛みと辱かしめにまみれている。
おお御頭には、嘲りのために結われた
茨の冠がのせられている。
おお御頭、さもなくば美しく
この上ない誉れと誇りに
飾られているはずが、
今はひどい侮辱を受けられている、
「ごきけんよう」とからかわれて。
2. あなたの気高い御顔よ、
それゆえにいつもなら
恐れおののくものを、
世の大いなる権威でさえも
だがどれほどあなたは嘲られ、
どれほどあなたは青ざめていることが。
誰があなたの眼の光を、
どんな光にも比べるもののない眼の光を、
これほどひどく汚したのか？

55.マタイ 27.31-32

そして彼らはイエスを嘲った後に、
上衣を脱がせて、
元の衣を着せ、
イエスを十字架に付けるために連れて行った。
さて彼らが外に出ると、
シモンというクレネ人に出会ったので、
無理矢理イエスの十字架を彼に負わせた。

56.レチタティーヴォ・バス

そう、まことに私たちの中の血肉は
十字架を強いられるためにある。
私たちの魂に良いものほど、
その味は苦くなるのだから。

57.アリア・バス

来たれ、甘い十字架、と私は言おう、
私のイエスよ、
それをいつでも負わせてください！
私の苦難があまりに重い時は、
私が自ら背負うのを手伝ってください。

58. Matthäus 27.33 - 44

Und da sie an die Stätte kamen
mit Namen Golgatha,
das ist verdeutschet "Schädelstätt",
gaben sie ihm Essig zu trinken
mit Gallen vermischet;
und da ers schmeckete,
wollte er's nicht trinken.
Da sie ihn aber gekreuziget hatten,
teilten sie seine Kleider
und wurfen das Los darum,
auf daß erfüllet würde,
das gesagt ist durch den Propheten:
"Sie haben meine Kleider unter sich geteilet,
und über mein Gewand
haben sie das Los geworfen."
Und sie saßen allda und hüteten sein.

Und oben zu seinen Häupten hefteten sie
die Ursach seines Todes beschrieben,
nämlich: "Dies ist Jesus, der Jüden König."
Und da wurden zween Mörder
mit ihm gekreuziget,
einer zur Rechten und einer zur Linken.
Die aber vorübergingen, lästerten ihn
und schüttelten ihre Köpfe und sprachen:
**"Der du den Tempel Gottes zerbrichst
und bauest ihn in dreien Tagen,
hilf dir selber! Bist du Gottes Sohn,
so steig herab vom Kreuz!"**

Desgleichen auch
die Hohenpriester spoteten sein
samt den Schriftgelehrten und Ältesten
und sprachen:

**"Andern hat er geholfen
und kann ihm selber nicht helfen.
Ist er der König Israel,
so steige er nun vom Kreuz,
so wollen wir ihm glauben.
Er hat Gott vertrauet,
der erlöse ihn nun,
lüstets ihn;
denn er hat gesagt:
-Ich bin Gottes Sohn.-"**

Desgleichen schmäheten ihn auch die Mörder,
die mit ihm gekreuziget waren.

58. マタイ 27.33-44

こうして彼らはゴルゴタという所に着いた。

それは訳せば「髑髏の所」となる。
そこで彼らはイエスに
苦よもぎを混ぜた葡萄酒を与えた。
するとイエスはこれを舐めたが、
飲もうとはしなかった。
兵卒たちはイエスを十字架に付けた後、
イエスの衣をくじ引きで分けた。

予言者によって言われたことが
成就するためである。
「彼らは私の衣を仲間内で分け、
私の服についてはくじ引きを行った。」

そして兵卒たちはそこに座り、
イエスを見張った。
またイエスの頭の上には、
死刑の罪状書きが掲げられた。
「この者はイエス、ユダヤ人の王」と。
更に2人の人殺しが
イエスと共に十字架に付けられた。
1人は右に、1人は左に。
通りかかった人々は、イエスを罵り、
頭を振って言った。

**「神殿を壊して
三日で建て直す者よ、
自分を救ってみよ！ お前が神の子なら、
十字架から降りてこい！」**
また同様に祭司長らも

律法学者や長老らとともに彼を嘲って言った。

「彼は他人を救ったのに、
彼自身を救うことは出来ない。
彼がイスラエルの王ならば、
十字架より直ちに降りて来るだろう。
そうすれば私たちは彼を信じよう。
彼は神を頼っているのだから、
神は今すぐ彼を救うだろう。
神がお望みなら。
彼は言ったのだから、
『私は神の子だ』と。」
共に十字架に付けられたる人殺し共も、
同様にイエスを罵った。

59. Recitativo-Alto

Ach Golgatha, unselges Golgatha!
Der Herr der Herrlichkeit
muß schimpflich hier verderben,
der Segen und das Heil der Welt
wird als ein Fluch ans Kreuz gestellt.
Der Schöpfer Himmels und der Erden
soll Erd und Luft entzogen werden.
Die Unschuld muß hier schuldig sterben,

das gehet meiner Seele nah;
ach Golgatha, unselges Golgatha!

60. Aria-Alto & Chorus

Sehet, Jesus hat die Hand,
uns zu fassen, ausgespannt,
kommt! - **Wohin?**- in Jesu Armen.
sucht Erlösung, nehmt Erbarmen,
suchet! - **Wo?**- in Jesu Armen.
Lebet, sterbet, ruhet hier,
ihr verläßnen Kücklein ihr,
bleibet - **Wo?**- in Jesu Armen.

61. Matthäus 27.45 - 50

Und von der sechsten Stunde an
war eine Finsternis über das ganze Land
bis zu der neunten Stunde.
Und um die neunte Stunde schrie Jesus laut
und sprach:
"Eli, Eli, lama, lama, asabthani?"
Das ist:
"Mein Gott, mein Gott, warum
hast du mich verlassen?"
Etliche aber, die da stunden,
da sie das hörten, sprachen sie:
"Der rufet dem Elias!"
Und bald lief einer unter ihnen,
nahm einen Schwamm
und füllte ihn mit Essig
und stekete ihn auf ein Rohr und tränkete ihn.
Die andern aber sprachen:
**"Halt! halt! laß sehen,
ob Elias komme und ihm helfe?"**
Aber Jesus schrie abermal laut,
und verschied.

59. レチタティーヴォ・アルト

ああゴルゴタよ、呪われしゴルゴタよ！
栄光の主は嘲られてここで滅びねばならない。

世の祝福と救いとなる方が
呪われて十字架に付けられる。
天地の創造主が
大地と大気を奪われようとしている。
罪のない者がここで罪を負わされて
死なねばならず、
それが私の魂を悲しませる。
ああゴルゴタよ、呪われしゴルゴタよ！

60. アリア・アルトと合唱

ごらん、イエスが御手を広げて、
私たちを抱こうとなさる。
来たれ！ - どこへ？ - イエスの御腕に。
救いを求め、憐れみを受けよ、
求めよ！ - どこに？ - イエスの御腕に。
生きよ、死ね、ここに憩え、
お前たち、見捨てられた難たちよ、
留まれ、 - どこに？ - イエスの御腕に。

61. マタイ 27.45-50

さて昼の6時（今日の12時）から
闇が全地を覆い、
それが9時（今日の3時）まで続いた。
そして9時頃イエスは大声で叫んで
言った。
「エリ、エリ、ラマ、ラマ、アザプタニ？」
それは訳すところなる。
「私の神、私の神、
なぜ私を見捨てられたのか？」
するとそこに居た者の内の、
数人がこれを聞いて、言った。
「これはエリヤを呼んでいるのだ！」
するとその中の一人がすぐに走って行き、
海綿を取って
酸い葡萄酒を含ませ、
それを葦の先に付けてイエスに飲まそうとした。
しかし他の人たちが言った。
「止める！ 止める！ 見届けよう、
エリヤが来て彼を救うかもしれないぞ。」
しかしイエスは再び大声で叫んで、
息をひきとられた。

62.Choral

Wenn ich einmal soll scheiden,
so scheid nicht von mir,
wenn ich den Tod soll leiden,
so tritt du denn herfür!
Wenn mir am allerbängsten
wird um das Herze sein,
so reiß mich aus den Ängsten
kraft deiner Angst und Pein!

63.Matthäus 27.51 - 57

Und siehe da,
der Vorhang im Tempel zerriß in zwei Stück
von oben an bis unten aus.
Und die Erde erbebete,
und die Felsen zerrissen,
und die Gräber täten sich auf,
und stunden auf viel Leiber der Heiligen,
die da schliefen,
und gingen aus den Gräbern
nach seiner Auferstehung
und kamen in die heilige Stadt
und erschienen vielen.
Aber der Hauptmann und die bei ihm waren
und bewahren Jesum,
da sie sahen das Erdbeben
und was da geschah,
erschranken sie sehr und sprachen:
"Wahrlich, dieser ist Gottes Sohn gewesen."
Und es waren viel Weiber da,
die von ferne zusahen,
die da waren nachgefolget aus Galiläa
und hatten ihm gedienet,
unter welchen war Maria Magdalena,
und Maria, die Mutter Jacobi und Joses,
und die Mutter der Kinder Zebedäi.
Am Abend aber kam ein reicher Mann
von Arimathia, der hieß Jeseeph,
welcher auch ein Jünger Jesu war,
der ging zu Pilato
und bat ihn um den Leichnam Jesu.
Da befahl Pilatus, man sollte ihm ihn geben.

64.Recitativo-Basso

Am Abend, da es kühle war,

62.コラール

いつか私が死ぬ時も、
私から離れないください。
私が死ゆえに苦しむ時、
あなたは近くまで来てください！
あらゆる不安が
私の心に宿る時、
私をこの不安から引き離してください、
あなたが耐えた不安と苦痛によって。

63.マタイ 27.51-57

すると、
神殿の幕が真っ二つに
上から下まで裂けた。
更に地が揺れ、
岩が割れ、
墓が開いて、
眠っていた多くの聖者の体が蘇り、

イエスが復活した後に墓を出て

聖なる都にやって来て
多くの人々の前に現われた。
さて百卒長や彼と共に居て
イエスを見張っていた者たちは、
地震とこれらの出来事を見て、

ひどく恐れて言った。
「本当に彼は神の子だった。」
また多くの女が、
遠くから見ていた。
彼女たちはガリラヤよりイエスに付いて来て、
イエスに仕えた女たちである。
その中にはマグダラのマリヤや、
ヤコブとヨセフの母マリヤ、
またゼベダイの子らの母も居た。
夕暮れに、あるアリマタヤ人の金持ちで
ヨセフと言う名の人々が来た。
彼もかつてイエスの弟子だった。
ヨセフはピラトの所へ行き
イエスの遺体の引き取りを願い出た。
そこでピラトは、
イエスの遺体を渡すよう命じた。

64.レチタティーヴォ・バス

夕暮れ、涼しくなった頃、

ward Adams Fallen offenbar;
am Abend drückt ihn der Heiland nieder.
Am Abend kam die Taube wieder
und trug ein Ölblatt in dem Munde.
O schöne Zeit! O Abendstunde!
Der Friedensschluß ist nun mit Gott gemacht,
denn Jesus hat sein Kreuz vollbracht.
Sein Leichnam kömmt zur Ruh,
ach! liebe Seele, bitte du,
geh, lasse dir den toten Jesum schenken,
o heilsames, o köstlichs Angedenken!

65.Aria-Basso

Mache dich, mein Herze, rein,
ich will Jesum selbst begraben.
Denn er soll nunmehr in mir
für und für seine süße Ruhe haben.
Welt, geh aus, laß Jesum ein!

66.Matthäus 27.59 - 66

Und Joseph nahm den Leib
und wickelte ihn in ein rein Leinwand
und legte ihn in sein eigen neu Grab,
welches er hatte lassen in einen Fels hauen,
und wälzete einen großen Stein
vor die Tür des Grabes und ging davon.
Es war aber allda Maria Magdalena
und die andere Maria,
die satzten sich gegen das Grab.
Des andern Tages,
der da folget nach dem Rüsttage,
kamen die Hohenpriester und Pharisäer
sämtlich zu Pilato und sprachen:
"Herr, wir haben gedacht,
daß dieser Verführer sprach,
da er noch lebete:
-Ich will nach dreien Tagen
wieder auferstehen.-
Darum befiel,
daß man das Grab verwahre
bis an den dritten Tag,
auf daß nicht seine Jünger kommen
und stehlen ihn
und sagen zu dem Volk:
-Er ist auferstanden von den Toten,-

アダムの墮落が明らかになった。
夕暮れに救い主は彼を鎮められた。
夕暮れに鳩が戻り、
口にオリブの葉を携えて来た。
おお美しき時！ おお夕暮れ時よ！
平和の契りが今や神と結ばれた。
イエスが十字架を果たされたからだ。
イエスの御体は今憩いにつかれる。
ああ、愛しい魂よ、請うがよい、
行って、死せるイエスをもらい受けよ。
おお救い、おお尊い形見よ！

65.アリア・バス

私の心よ、自ら清めよ、
私は自らイエスを葬ろう。
イエスは今より私の内にて
永遠に甘い憩いにつかれるのだから。
この世は出て行け！
イエスがお入りください。

66.マタイ 27.59-66

ヨセフはイエスの遺体を受け取って、
きれいな亜麻布に包み、
自分が持つ新しい墓に納めた。
それは岩を人手で掘らせて作ったものである。
更に大きな石を墓の入り口に転がして来て置き、
そこを去った。
そこにはマグダラのマリヤと
もう一人のマリヤが残り、
墓に向かって座った。
翌日、
即ち準備日の次の日、
祭司長やパリサイ人たちが、
皆でピラトのもとに来て言った。
「総督、私たちは思い出しました。
あの人を惑わす者(イエス)が、
生前こう言いました。
『私は三日後に蘇るだろう』と。
そこで三日過ぎるまで墓を見張るように
命令してください。
さもないと彼の弟子たちが来て
遺体を盗み
民衆に言うでしょう。
『彼は死より蘇った』と。

**und werde der letzte Betrug ärger
denn der erste!"**

Pilatus sprach zu ihnen:
"Da habt ihr die Hüter,
gehet hin und verwahrt, wie ihr's wisset!"
Sie gingen hin
und verwahrten das Grab mit Hütern
und versiegelten den Stein.

67. Recitativo & Chorus

Nun ist der Herr zur Ruh gebracht.

Mein Jesu, gute Nacht!

Die Müh ist aus,
die unsre Sünden ihm gemacht.

Mein Jesu, gute Nacht!

O selige Gebeine,
seht, wie ich euch mit Buß und Reu beweine,

daß euch mein Fall in solche Not gebracht!

Mein Jesu, gute Nacht!

Habt lebenslang vor euer Leiden
tausend Dank,
daß ihr mein Seelenheil so wert geacht'.

Mein Jesu, gute Nacht!

68. Chorus

**Wir setzen uns mit Tränen nieder
und rufen dir im Grabe zu:
Ruhe sanfte, sanfte ruh!**

Ruht, ihr ausgesognen Glieder!

- Ruhet sanfte, ruhet wohl!-

**Euer Grab und Leichenstein
soll dem angstlichen Gewissen
ein bequemes Ruhekissen
und der Seelen Ruhstatt sein.**

- Ruhet sanfte, sanfte ruht!-

**Höchst vergnügt
schlummern da die Augen ein.**

**それでは後の惑わし(蘇りの予告)は
前のもの(神の子宣言)より
ひどくなります。」**

ピラトは彼らに言った。
「番兵を貸そう。
行って納得の行くように墓を見張れ！」
彼らは行って、
番兵と共に墓を見張り、
石に封印をした。

67. レチタティーヴォと合唱

今や主は憩いにつかれた。

私のイエスよ、お休みください！

私たちの罪が主に負わせた苦しみは終わった。

私のイエスよ、お休みください！

おお聖なるなきがらよ、
ご覧ください、私がどんなに後悔と共に
あなたのことを嘆いたかを。

私の墮落があなたに

このような苦しみをもたらしたのだから。

私のイエスよ、お休みください！

生きる限りあなたの受難に
多くの感謝を捧げましょう。

あなたが私の魂の救いを

これほど大事にしてくださったのだから。

私のイエスよ、お休みください！

68. 合唱

**私たちは涙にくれひざまずき、
御墓の中のあなたに呼びかけよう。**

お休み安らかに、

安らかにお休みくださいと！

お休みください、傷にまみれた御体よ！

- お休み安らかに、

心ゆくまでお休みください！ -

**あなたが入っておられる墓と墓石こそ
悩める良心には**

**心地良い憩いの床、
そして魂の憩いの場。**

- お休み安らかに、

安らかにお休みください！ -

この目はこの上なく満ち足りまどろむ。

演奏活動年譜

主催公演

上演日	上演曲目	指揮	上演会場
1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1986. 3.28	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1987. 4.13	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1988. 3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	福祉文化会館
1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	遠州栄光教会
1990.10. 7	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	福祉文化会館
1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	遠州栄光教会
1991. 8.12	バッハ「ヨハネ受難曲」朗読と合唱	三澤洋史	龍山村森林文化会館
1992. 3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	福祉文化会館
1993. 3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	福祉文化会館
1994. 6.12	「無伴奏合唱への誘い」BWV225/229他	三澤洋史	遠州栄光教会
1995. 1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他	三澤洋史	遠州栄光教会
1996. 2.18	バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	アクト中ホール
1997. 2.16	バッハ「マニフィカート」	三澤洋史	アクト中ホール
	モーツァルト「レクイエム(バイヤー版)」		
1998. 4. 5	バッハ：BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	福祉文化会館
2000. 2.13	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	アクト中ホール
2000.12.29	ドイツ演奏旅行	三澤洋史	ライブツィヒ
-2001.1.8	「ミサ曲口短調」、BWV65/171/230		聖トマス教会他
2001. 4.22	バッハ「復活祭オラトリオ」他	三澤洋史	アクト中ホール
2003. 2.23	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	アクト中ホール
2003.12.20	「クリスマス・コンサート」BWV61/62/230他	河野/早川	遠州栄光教会

合同・協賛公演

上演日	上演曲目および内容	上演会場
1986. 9.15	浜松クリスチャン・クワイアとの合同演奏会	遠州栄光教会
1986.10.19	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1987. 9.20	教会音楽コンサート協賛 - BWV56/80	遠州栄光教会
1987.10. 9	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1988. 3. 5	正泉寺「山寺音楽会」協賛	引佐郡井伊谷正泉寺
1991. 3.17	瑞穂会ピアノ発表会賛助出演	クリエート浜松
1991. 6.30	掛川市駅南学習センター美感ホールのオープニング	掛川市美感ホール
1991.12.23	市政80周年記念ラートハウス・コンツェルト	浜松市役所ホール

合唱団員募集

浜松バッハ研究会

浜松バッハ研究会はJ.S.バッハの声楽作品を中心に、大作やカンタータ、モテトなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演してまいりましたが、今年で創立20周年となりました。今後もバッハの声楽作品の魅力を一ひりでも多くの皆様にお伝えすべく、活動を続けてまいりたいと思っております。このような私たちの演奏活動に興味をお持ちの方は、ぜひ一度練習場までお越しください。

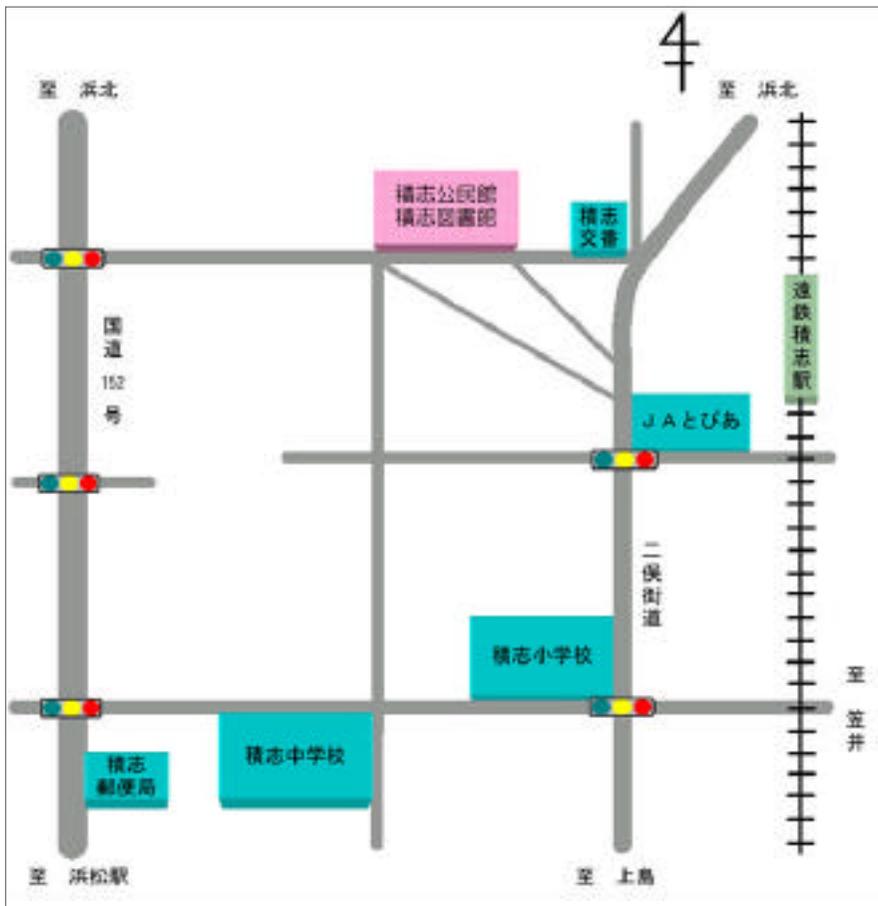
主な練習場 積志公民館（下地図、浜松市の公民館紹介の頁より転載許可をいただきました）

練習日時 ・毎週土曜日 19:00～21:30
・月1回日曜日 13:00～17:00（三澤先生の練習）

会費 月額2500円（学生2000円、高校生1500円）

連絡先 河野周平（ 053-585-3364[FAX兼]、E-mail: okasan2@za.tnc.ne.jp ）

ホームページ <http://www.tcp-ip.or.jp/~bach/>、E-mail: bach@tcp-ip.or.jp



豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理...という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身です。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に、参加しています。豊橋及びその近くにお住まいで、バッハの声楽作品を歌いたい方は、ぜひ一度練習を見にお越しください。

練習日時 ・毎週金曜日20:00～21:30 新川小学校（下地図）
 ・月1回日曜日13:00～17:00 浜松（三澤先生の練習）

会費 月額1500円

連絡先 安井研一 0532-47-0676

ホームページ <http://www.geocities.jp/bach0532/>

